



FUKUOKA
NURSING
COLLEGE

2023年度 シラバス

第1学年

(2022年度以降入学生対応)

2022年度以降入学者 課程表(保健師養成課程)

選択科目 講義「講」
自由科目 演習「演」
実習「実」

Table with columns for academic years (1-year, 2-year, 3-year, 4-year) and semesters (前期, 後期). Rows are categorized by subject areas: 基礎分野 (Basic Fields), 専門基礎分野 (Specialized Basic Fields), and 専門分野 (Specialized Fields). Each cell contains course details like '情報リテラシー', '基礎ゼミナール', '人間の成長と発達', etc., with unit counts and credit hours. A large green box with the text '保健師養成課程' is overlaid on the right side of the table.

保健師養成課程

* 養護教諭二種免許申請に必要な選択科目

科目ナンバリングのコード配分規則

(例) DN111001

DN 1 1 1 001

	学部	カリキュラム	学年水準	履修区分	通し番号
(例)	DN (看護学部)	1 (新加)	1 (第1学年)	1 (必修)	001
詳細	別表1	別表2	別表3	別表4	別表5

別表1

識別文字	学科名等	英語標記
DN	看護学科	Department of Nursing

別表2

番号	付加情報
0	旧カリ
1	新カリ(2022年度以降)
9	その他

別表3

番号	付加情報
0	導入レベル
1	1年
2	2年
3	3年
4	4年
8	共通
9	単位互換科目

別表4

番号	付加情報
0	なし
1	必修
2	選択必修
3	選択
4	自由科目
9	その他

別表5

番号	科目分野
001~400	基礎分野
401~600	専門基礎分野
601~	専門分野

目次

1年

課程表（看護師養成課程・保健師養成課程）

科目ナンバリングコード配分規則

【前期】 ※科目名をクリックすると当該科目のシラバスページになります

必修科目

科目名	区分	ページ
情報リテラシー	演習	3
基礎ゼミナール	演習	5
英語コミュニケーションⅠ（基礎）	演習	7
人間の成長と発達	講義	9
well-being	講義	11
社会規範論	講義	13
人間の生と死	講義	14
形態機能学（解剖Ⅰ）	講義	16
形態機能学（生理Ⅰ）	講義	18
公衆衛生学Ⅰ	講義	20
看護学概論	講義	22
基礎看護技術論演習	演習	24
地域在宅看護フィールド演習	演習	26

選択科目

科目名	区分	ページ
健康科学	講義	28
まちづくり概論	講義	30
社会福祉概論	講義	31
国際協力	講義	32

自由科目

科目名	区分	ページ
看護のための生物学・化学	講義	34
看護のための数学	講義	35
看護のための物理学	講義	36

【後期】 ※科目名をクリックすると当該科目のシラバスページになります

必修科目

科目名	区分	ページ
論理的思考法	演習	38
英語コミュニケーションⅡ (応用)	演習	40
人間関係論	講義	42
家族関係論	講義	43
形態機能学 (解剖Ⅱ)	講義	45
形態機能学 (生理Ⅱ)	講義	47
形態機能学演習	演習	49
薬理学	講義	50
病態疾病論Ⅰ	講義	52
病態疾病論Ⅱ	講義	54
感染免疫学	講義	56
日常生活援助論演習	演習	58
フィジカルアセスメント演習	演習	61
看護理論	講義	63
基礎看護学実習	実習	65
成人看護学概論	講義	67
公衆衛生看護学概論	講義	69

選択科目

科目名	区分	ページ
地域活動と社会貢献	演習	71
教育方法概論	講義	72
※公衆衛生学Ⅱ	講義	74

※1 保健師課程に選抜された場合は、必修科目となる。

公衆衛生学Ⅱ

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講期間
DN111001	基礎	必修	情報リテラシー	演習	1	30	15	1年次前期

関連するディプロマ・ポリシー NO. 7

評価責任者及び担当教員

評価責任者：晴佐久 悟 担当教員：晴佐久悟，内田荘平，門司真由美，秋永和之

授業の目的とねらい

社会人としての倫理観のもと、適切な情報の利活用能力と安全な情報管理能力の育成のために、コンピュータとソフトウェアの活用方法や情報通信ネットワークを利用したの情報検索法について理解し、情報の価値とモラルや情報の収集、加工、廃棄などの情報のセキュリティ管理方法を習得するとともに、今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常生活、仕事等の場での活用について理解する。
この教科では、配布プリント（演習資料など）とパソコン（Windows）を使用して演習する。

到達目標

- 全体像の理解 知識
 - 1) アプリケーションソフト（Word、Excel、Power Point）の利用法について説明できる。
 - 2) Moodle、Zoom、看護ポータルサイトの利用法について説明できる。
 - 3) 情報モラルと情報セキュリティについて説明できる。
 - 4) 医療に活用される IT、ICT、Iot、IoMT、AI と ELSI の諸問題への対処を説明できる。
- 態度形成 態度
 - 1) アプリケーションソフトを使用して、レポート提出先やメール送信先への失礼のない基本的態度を養う。
 - 2) 情報社会における SNS、ICT での取り扱いに関する基本的態度を養う。
- スキル形成
 - 1) Word、Excel を利用して、文書、表を作成できる能力を身につける。
 - 2) Power Point を利用して、資料を作成し、プレゼンテーションできる能力を身につける。
 - 3) 学内で利用している ICT を利用できる能力を身につける。
 - 4) 情報モラルと情報セキュリティを守る能力を身につける。

準備学習

講義前にシラバスの学習項目ならびに行動目標を理解した上で、教科書の指定された項目（予習の項目）に目を通しておくこと。学生は課せられる課題や、その他学習活動に約 15 時間を費やすこと。
講義後は、配布資料を中心に、講義内容を復習すること。

成績評価基準

各ステップの態度（20 点）、提出課題（80 点）として総合 100 点で評価する。課題の締め切りに遅れた場合は、減点されるので、締め切り日に注意する。授業態度には、授業に臨む姿勢、プレゼンテーション、グループ討議などのディスカッションが含まれる。

課題等に対するフィードバック

評価後に返却し解説を行う

教科書・参考書など

教科書：情報モラル&情報セキュリティ 富士通 FOM 富士通 FOM 出版

授業内容

回	担当教員	授業内容
1	晴佐久 秋永	ユニット 1 1) 情報処理実習室の機器を利用できる。 2) 学内 LAN 上の学生システムを利用できる。 3) パスワードの管理法を説明できる。
2	晴佐久 秋永	ユニット 2 1) ソフトウェアの役割を説明できる。 2) アプリケーションソフトを利用して作成したファイルを保存できる。 3) メールを設定し、添付ファイルのある電子メールを送受信できる。
3	晴佐久 秋永	ユニット 3 1) 遠隔授業のシステムを説明できる。 2) 看護ポータルサイトの学外での遠隔操作ができる。 3) Moodle、看護ポータルサイトにアクセスし、ログインできる。
4	晴佐久 門司	ユニット 4 1) Moodle を利用できる。 2) 看護ポータルサイトが利用できる。

5	晴佐久	<p>ユニット5</p> <p>1) 文書作成ソフトの基本操作ができ、そのソフトを使用してレポートを作成できる。</p> <p>2) メールのマナーを守り、メールを利用できる。</p>
6	晴佐久	<p>ユニット6</p> <p>1) 表計算ソフトを用いて、平均値、標準偏差を求めることができる。</p> <p>2) 表計算ソフトを用いて、グラフを作成し、レポートに利用できる。</p>
7	晴佐久	<p>ユニット7</p> <p>1) インターネットを利用して情報を収集できる。</p>
8		<p>2) 画像処理ができる。</p> <p>3) 収集した情報や画像処理により、効果的なプレゼンテーションが実施できる。</p>
9	晴佐久	<p>ユニット8</p> <p>1) インターネットを利用して適切な医学情報を収集できる。</p>
10		<p>2) 収集した医学情報を適切にプレゼンテーションが実施できる。</p>
11	内田	<p>ユニット9</p> <p>1) 情報モラルとは何かを述べられる。</p> <p>2) 情報セキュリティ対策はなぜ必要か述べるができる。</p> <p>3) 個人情報の適切な取り扱いの必要性について述べるができる。</p> <p>4) 医療施設において個人情報保護に関するガイドラインに従った行動をとる方法を述べるができる。</p>
12	内田	<p>ユニット9</p> <p>1) 創作者の権利を保護する著作権とは何かを述べるができる</p> <p>2) コピー&ペーストをしたレポートを提出する影響について説明できる。</p> <p>3) 引用のルールを説明することができる</p> <p>4) デジタルデータ（映画・音楽・ソフトウェア・書籍・TV番組）の著作権について述べるができる。</p>
13	内田	<p>ユニット9</p> <p>1) ネット社会に潜む危険と対策について述べるができる</p> <p>2) コンピュータウイルスの感染の経路と影響を述べるができる</p> <p>3) コンピュータウイルスからパソコンやスマートフォンのデジタルデータを守るための方法を述べるができる。</p> <p>4) パスワードの重要性と管理簿注意事項を述べるができる。</p> <p>5) ネットショッピング等でトラブルに遭わないための注意事項を述べるができる。</p>
14	内田	<p>ユニット10 医療におけるIT化の進展と諸問題①</p> <p>1) IT (Information Technology)、ICT (Information and Communication Technology)、IoT (Internet of Things) とは何か述べるができる。</p> <p>2) 医療における倫理的・法的・社会的な課題 (ELSI) への対応について述べるができる</p>
15	内田	<p>ユニット10 医療におけるIT化の進展と諸問題②</p> <p>医療情報システムについて、その方法と諸問題を説明できる</p> <p>3) 医療情報システム</p> <p>4) 電子カルテ</p> <p>5) 看護支援システム</p> <p>6) 看護情報</p> <p>7) AIを活用した看護技術と看護サービス</p>

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講期間
DN111005	専門	必修	基礎ゼミナール	演習	2	30	15	1年次前期
関連するディプロマ・ポリシー NO. 7								
評価責任者及び担当教員								
評価責任者：中島富有子 担当教員：中島富有子、大久保つや子、晴佐久悟、岡田賢司、藤岡奈美、得能智武、荒川満枝								
授業の目的とねらい								
<p>大学において看護を学ぶ学生としての目的意識を持ち、自主的に学ぶ態度を身につけることを目的とする。看護を学ぶ目的を認識し、主体的に学ぶ態度と学習方法（授業の受け方、ノート・テイキングなど）を修得する。さらに、インターネットや図書システムを活用した文献検索方法などについて理解した上で自己の学習方法を見出し、自己の課題に取り組めるように、課題探求、問題解決能力を養う。また、アカデミック・スキルの基盤となる討議法、プレゼンテーション方法を学ぶ。討議法においては、様々な角度から問題を検証して解決策を絞り込む能力を育成する。プレゼンテーションでは、いかに聞き手を「説得できるように伝達するか」を意識しながら、「要点をまとめて整理し」、「聞き手の立場を考えた表現をする」といった基本的な技術を修得する。</p>								
到達目標								
<p>1. 全体像の理解 知識 1) 文献を活用して自己の主張をまとめることができる。</p> <p>2. 態度形成 態度 1) グループディスカッションに積極的に参加できる。 2) グループメンバーとコミュニケーションをとり、協働できる。 3) 計画的に課題に取り組むことができる。</p> <p>3. スキル形成 1) 自己の振り返りについて文章を書ける。</p>								
準備学習								
事前課題のレポートを作成し、初回授業にのぞむ。各回に必要な資料や文献を準備する。準備学習に必要な時間は、全体で60時間である。								
成績評価基準								
個人で作成するレポート（80点）、グループディスカッションへの参加態度やグループでのプレゼンテーションなどの評価（20点）の集計（100点満点）で評価する。課題の締め切りに遅れた場合は、減点されるので、締め切り日に注意する。								
課題等に対するフィードバック								
課題レポートは、評価後に返却する。評価内容やコメントは、評価者から個別に伝える。								
教科書・参考書など								
適宜指示をする								
授業内容								
回	担当教員	授業内容						
1・2	中島、大久保、晴佐久、岡田、藤岡、得能、荒川	<p>ユニット1 キャリアデザイン キャリアデザインの定義、自分のキャリアデザインについて考え、4年間の学習計画を立案する。</p>						
3・4	中島、大久保、晴佐久、岡田、藤岡、得能、荒川	<p>ユニット2 ポートフォリオ ポートフォリオ、授業ノートのとり方を学ぶ。 授業を通して、自己の学習態度、ノートのとり方を振り返ることができる。</p>						
5・6	中島、大久保、晴佐久、岡田、藤岡、得能、荒川	<p>ユニット3 文献の活用 図書館の使い方を知り、文献・資料の集める（文献検索の方法）。 ①図書館の使用方法 ②コンピューターを使用して、文献・資料の集め方について実施する。</p>						

7・8	中島、大久保、晴佐久、岡田、藤岡、得能、荒川	ユニット4 アサーション アサーション方法について理解する。
9・10	中島、大久保、晴佐久、岡田、藤岡、得能、荒川	ユニット5 文章の書き方 文章の書き方（文章の原理・原則）について理解し、文献・資料を活用し文章を書ける。
11・12	中島、大久保、晴佐久、岡田、藤岡、得能、荒川	ユニット6 効果的なカンファレンス 自分の意見を発表する方法を理解し、集団の中で、発表することができる。
13	中島、大久保、晴佐久、岡田、藤岡、得能、荒川	効果的なカンファレンスの実際を見学し、その後グループワークによるカンファレンスを行う。
14	中島、大久保、晴佐久、岡田、藤岡、得能、荒川	ユニット7 レポート作成 カンファレンス結果、文献を活用しレポートの書き方を学ぶ。
15	中島、大久保、晴佐久、岡田、藤岡、得能、荒川	ユニット8 授業を通して作成したポートフォリオによって、学びの振り返りができ、今後に生かす方法がわかる。

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講期間
DN111010	基礎	必修	英語コミュニケーション I (基礎)	演習	1	30	15	1 年次前期
関連するディプロマ・ポリシー NO. 1, 2								
評価責任者及び担当教員								
評価責任者：学生部長 担当教員：壬生 正博, ニールセン・ピーター								
授業の目的とねらい								
「国際的な異文化交流」を図るために、英語コミュニケーション・スキルの基礎となる「聞く力」、「伝える力」、「読む力」の習得を目的とする。教材には日常生活や社会人として役に立つものを取り上げ、基本的な語彙、文法・構文等を復習しつつ、それらを総合的に活用して、比較的易しい英文の読み書きや日常会話に応用できる慣用表現を習得する。								
到達目標								
全体の到達目標： 英語コミュニケーション・スキルの基礎となる「聞く力」、「伝える力」、「読む力」を身に付ける。								
知識： 日常生活の基本的な英語表現を記述できる。								
態度・技能形成： 日常生活の基本的な英語表現を正確に読み取り、聞き取り、理解した上で（英語および日本語で）伝えることができる。								
準備学習								
テキストや配布資料をもとに予習・復習をする。予習・復習に必要な時間は全体で 15 時間とする。								
成績評価基準								
受講態度等：積極性、会話力（10%～ 20%）、中間テストおよび定期試験：英文の理解力、英語表現力（80%～ 90%）として総合 100 点で評価								
課題等に対するフィードバック								
課題は特に予定していない。								
教科書・参考書など								
(教科書) Say It Now ! (Kinseido) (参考書) Japanese-English dictionary , English-Japanese dictionary								
授業内容								
回	担当教員	授業内容						
1	壬生、ニールセン	ユニット 1 I Commute by Train 1) 日常生活の基本的な英語表現を理解する。 2) エクササイズを通して、本ユニットの内容をより深く認識する。 3) コミュニケーションに役立つ基本的な慣用表現を身につける。						
2	壬生、ニールセン	ユニット 2 What Are You Going to Do This Weekend? 1) 日常生活の基本的な英語表現を理解する。 2) エクササイズを通して、本ユニットの内容をより深く認識する。 3) コミュニケーションに役立つ基本的な慣用表現を身につける。						
3	壬生、ニールセン	ユニット 3 Have You Ever Volunteered? 1) 日常生活の基本的な英語表現を理解する。 2) エクササイズを通して、本ユニットの内容をより深く認識する。 3) コミュニケーションに役立つ基本的な慣用表現を身につける						
4	壬生、ニールセン	ユニット 4 Is There a Bank Near Here? 1) 日常生活の基本的な英語表現を理解する。 2) エクササイズを通して、本ユニットの内容をより深く認識する。 3) コミュニケーションに役立つ基本的な慣用表現を身につける。						

5	壬生、ニールセン	<p>ユニット5 Could I Join Your Class?</p> <p>1) 日常生活の基本的な英語表現を理解する。 2) エクササイズを通して、本ユニットの内容をより深く認識する。 3) コミュニケーションに役立つ基本的な慣用表現を身につける。</p>
6	壬生、ニールセン	<p>ユニット6 You Should Apply for the Program</p> <p>1) 日常生活の基本的な英語表現を理解する。 2) エクササイズを通して、本ユニットの内容をより深く認識する。 3) コミュニケーションに役立つ基本的な慣用表現を身につける。</p>
7	壬生、ニールセン	<p>ユニット7 What Do the Plans Includes?</p> <p>1) 日常生活の基本的な英語表現を理解する。 2) エクササイズを通して、本ユニットの内容をより深く認識する。 3) コミュニケーションに役立つ基本的な慣用表現を身につける。</p>
8	壬生、ニールセン	<p>中間テスト, etc.</p> <p>1) 日常生活の基本的な英語表現を復習する。 2) 中間テストを通して、本ユニットの内容をより深く認識する。 3) コミュニケーションに役立つ基本的な慣用表現を身につける。</p>
9	壬生、ニールセン	<p>ユニット8 My New Apartment Is Safer Than My Old One</p> <p>1) 日常生活の基本的な英語表現を理解する。 2) エクササイズを通して、本ユニットの内容をより深く認識する。 3) コミュニケーションに役立つ基本的な慣用表現を身につける。</p>
10	壬生、ニールセン	<p>ユニット9 Typing Is Easy for Me!</p> <p>1) 日常生活の基本的な英語表現を理解する。 2) エクササイズを通して、本ユニットの内容をより深く認識する。 3) コミュニケーションに役立つ基本的な慣用表現を身につける。</p>
11	壬生、ニールセン	<p>ユニット10 I Have Many Things to Learn</p> <p>1) 日常生活の基本的な英語表現を理解する。 2) エクササイズを通して、本ユニットの内容をより深く認識する。 3) コミュニケーションに役立つ基本的な慣用表現を身につける。</p>
12	壬生、ニールセン	<p>ユニット11 If I Travel Abroad, I'll Take a Group Tour</p> <p>1) 日常生活の基本的な英語表現を理解する。 2) エクササイズを通して、本ユニットの内容をより深く認識する。 3) コミュニケーションに役立つ基本的な慣用表現を身につける。</p>
13	壬生、ニールセン	<p>ユニット12 Osamu Tezuka Is Admired by Many People</p> <p>1) 日常生活の基本的な英語表現を理解する。 2) エクササイズを通して、本ユニットの内容をより深く認識する。 3) コミュニケーションに役立つ基本的な慣用表現を身につける。</p>
14	壬生、ニールセン	<p>ユニット13 Here Is a Book Showing Various Recipes?</p> <p>1) 日常生活の基本的な英語表現を理解する。 2) エクササイズを通して、本ユニットの内容をより深く認識する。 3) コミュニケーションに役立つ基本的な慣用表現を身につける。</p>
15	壬生、ニールセン	<p>ユニット14 There Is a Candidate Who Want to Support</p> <p>1) 日常生活の基本的な英語表現を理解する。 2) エクササイズを通して、本ユニットの内容をより深く認識する。 3) コミュニケーションに役立つ基本的な慣用表現を身につける。</p>

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講期間
DN111200	基礎	必修	人間の成長と発達	講義	1	15	8	1年次前期
関連するディプロマ・ポリシー NO. 1・2								
評価責任者及び担当教員								
評価責任者：岡田 賢司 担当教員：岡田 賢司								
授業の目的とねらい								
<p>この科目では、「人間とは誕生から死まで生涯をかけて発達する存在である」ことを前提として、誕生から、乳児期、幼児期、児童期、青年期、成人期、老年期に至るまでの発達を包括的に見ていく「生涯発達」の視点を持ち、看護専門職として様々な発達段階にある対象者を包括的に理解する視点を養うことを目指します。</p> <p>本科目の学修成果は、主に筆記試験、授業態度・課題内容で確認します。</p> <p>(実務経験を生かした教育内容) 臨床医の立場から、誕生から、乳幼児、児童期、青年期、成人期、老年期に至るまでのヒトのライフサイクルの視点で、様々な発達段階にある対象者の特徴や主な健康問題を包括的に教授する。</p>								
到達目標								
<p>1. 全体像の理解 (知識)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 家族の構造と機能について説明することができる。 2) 日本における家族の概念の変遷と現代の家族関係について説明することができる。 3) 家族の成長と発達課題について説明することができる。 4) 結婚とパートナー関係について説明することができる。 5) 育児と子育て支援について説明することができる。 6) ワークライフバランスについて説明することができる。 7) 生殖医療技術の発達と新たな家族関係について説明することができる。 8) ドメスティック・バイオレンスについて説明することができる。 <p>2. 態度形成 (態度)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 関連する予習を行ったうえで授業に参加する。 2) 家族の関係性を学ぶ積極的な学修態度を養う。 3) 講義後は、講義中の指定した教科書の項目や図を中心に、講義内容を復習する。 <p>3. スキル形成 (技能)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 家族に関連する統計情報が示す意味を読み取ることができる。 2) 家族関係における事例や話題を基に、課題探求力を身につけることができる。 3) 与えられた課題に対し、適切な引用文献を用い、自分の考えや資料からの引用を要約し、レポートを作成することができる。 								
準備学習								
<p>講義前にシラバスの学修項目ならびに行動目標を理解した上で、教科書の指定された項目（予習の項目）に目を通しておくこと。講義後は、講義中の指定した教科書の項目や図を中心に、講義内容を復習すること。</p> <p>予習・復習に必要な時間は全体で30時間とする。</p>								
成績評価基準								
<p>筆記試験（80点）、授業態度・課題内容（20点）など総合して評価する。授業に対するコメントなど、提出物の期限が守れなかった場合は減点対象とする。</p>								
課題等に対するフィードバック								
<p>レポートなどの提出物は評価後返却し解説を行う。</p>								
教科書・参考書など								
<p>教科書：奈良間美保・丸光恵他 著 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [1] 小児看護学概論小児臨床看護総論」 医学書院</p> <p>奈良間美保・丸光恵他 著 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論」 医学書院</p> <p>小松浩子・井上智子他 著 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [1] 成人看護学総論」 医学書院</p> <p>岩田健太郎他著 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [11] アレルギー・膠原病感染症」 医学書院</p> <p>北川公子 他著 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学」 医学書院</p> <p>水田祥代・窪田恵子 監修 「看護で教える最新の口腔ケア -授業・演習・臨床・在宅現場でも、すぐに使える！-</p>								

大道学館出版部
 参考書：竹下研三 著 「人間発達学」 中央法規
 服部祥子 著 「生涯人間発達論」 医学書院
 上田礼子 著 「生涯人間発達学」 三輪書店

授業内容

回	担当教員	授業内容
1	岡田	ユニット1 小児期における成長・発達（1） ライフサイクルにおける出生から乳児期の特徴を知り、この時期の身体的発育および精神的発達について学ぶ。
2	岡田	ユニット1 小児期における成長・発達（2） ライフサイクルにおける幼児期の特徴を知り、この時期の身体的発育および精神的発達について学ぶ。
3	岡田	ユニット1 小児期における成長・発達（3） ライフサイクルにおける児童期から青年期の特徴を知り、この時期の身体的発育および精神的発達について学ぶ。
4	岡田	ユニット2 成人期における心身の特徴（1） ライフサイクルにおける成人期の特徴を知り、この時期に特徴的な疾患について学ぶ。
5	岡田	ユニット2 成人期における心身の特徴（2） 成人期に特徴的な免疫関連疾患について学ぶ。
6	岡田	ユニット2 成人期における心身の特徴（3） 成人期の社会生活と関連する疾患について学ぶ。
7	岡田	ユニット3 老年期における発達課題（1） ライフサイクルにおける老年期の特徴を知り、老年期の身体的特性について学ぶ。
8	岡田	ユニット3 老年期における発達課題（2） 老年期における社会的側面と精神的特性、心理的課題について学ぶ。

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講期間
DN111200	基礎	必修	well-being	講義	1	15	8	1年次前期
関連するディプロマ・ポリシー NO. 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7								
評価責任者及び担当教員								
評価責任者： 荒川満枝 担当教員： 荒川満枝								
授業の目的とねらい								
<p>(授業のねらい)</p> <p>看護の対象者にとって最適な生活（well-being）とは何かを考えるための導入科目として1年次前期に配置する。健康に関する基本的な概念を学修し、人間の成長発達段階やライフサイクルの違いによる対象者の健康観の違いや多様な価値観をもつ看護の対象者にとって、最適な生活（well-being）とは何かを考えるための基礎知識を学修する。</p> <p>(実務経験を生かした教育内容)</p> <p>大学附属病院等での看護実践の経験を活かし、well-beingを探究する上で必要な人間の多様性と人間の尊厳について具体的な事例を通して教授する。</p>								
到達目標								
<p>1. 全体像の理解 知識</p> <p>1) 人間の生命、尊厳、権利を尊重することの意味について説明できる。</p> <p>2) 健康の定義と健康の捉え方の推移と健康指標の変化について説明できる。</p> <p>3) 主観的・心理的 well-being について説明できる。</p> <p>4) 人間の多様な価値観と well-being の関連について説明できる。</p> <p>5) well-being とQOLの概念、評価方法について説明できる。</p> <p>6) 「well-being」を実現するための看護の役割について説明できる。</p> <p>2. 態度形成 態度</p> <p>1) 人間の多様な価値観や well-being について探求するため文献等からの情報を得ようとする。</p> <p>2) 対象者の well-being について、自身の考えを表現し、他者とのディスカッションによって自身の考えを発展させることができる。</p> <p>3. 技能</p> <p>1) 対象者の well-being について考えを深めレポートにまとめることができる。</p> <p>2) well-beingに関する課題について、ディスカッションし発表ができる。</p>								
準備学習								
<p>講義前にシラバスで予習内容を確認し、参考書等を活用し事前課題に取り組んでおく。また、well-beingに影響する健康・経済・憲法（基本的人権）・幸福感など、学習課題に関する資料を入手し、授業内容の理解に活用する。</p> <p>予習・復習に必要な時間は、全体で29時間である。</p>								
成績評価基準								
<p>筆記試験（50点）、課題レポート（50点）、授業態度など総合して評価を行う。</p> <p>課題の締め切りに遅れた場合は、減点されるので、締め切り日までに提出すること。授業態度には、授業に臨む姿勢、グループ討議などのディスカッションが含まれる。</p>								
課題等に対するフィードバック								
課題等に関するフィードバックは、発表および提出された課題レポートへのコメント等、授業の中で行う。								
教科書・参考書など								
<p>教科書：特に指定しない。資料を準備する。</p> <p>参考書：茂野香おる・長谷川万希子他 著 「系統看護学講座専門分野Ⅰ 基礎看護学（1）看護学概論」医学書院 水田祥代、窪田恵子監修：看護で教える最新の口腔ケア授業・演習、臨床・在宅現場でも、すぐに使える！—大道学館出版部，2020 小山真理子編集 「看護学基礎テキスト 看護の対象」、日本看護協会出版会 V. ヘンダーソン、湯楨ます他訳 「看護の基本となるもの」 日本看護協会出版会</p>								

授業内容		
回	担当教員	授業内容
1	荒川満枝	ユニット1 ガイダンス「well-being」の授業概要、教育課程における位置づけ well-beingの定義についての問題提起をし、学びを開始する。
2	荒川満枝	ユニット2 社会の変遷と健康観の変化 健康の捉え方の推移と健康指標の変化について学ぶ。
3	荒川満枝	ユニット3 幸福感、よい生、よい生存 幸福感についてデータから考察し、生活の質（Quality of Life ; QOL）に影響する因子について学ぶ。主観的 well-being と心理的 well-being に関する視点を理解するとともに、QOL への影響を学ぶ。
4	荒川満枝	ユニット4 人間の成長・発達1 人体の成長と発達について、生命体としての価値や尊厳について学ぶ。
5	荒川満枝	ユニット4 人間の成長・発達2 人間の成長・発達段階や心身の適応と不適応の関連について学ぶ。 各発達段階のwell-beingに影響する心理社会的要因について学ぶ。
6	荒川満枝	ユニット4 人間の成長・発達3 大学生や高齢者のwell-beingに影響する心理社会的要因について学ぶ。 口腔と口腔ケアのwell-beingの関連性について学ぶ。
7	荒川満枝	ユニット5 多様性を認める社会、人が生きる社会、well-beingの評価 well-beingと現在の社会状況、またwell-beingとソーシャルサポートの関連について学ぶ。またwell-beingに関する様々な考え方や視点を踏まえて、QOLの概念との関係や、評価方法について学ぶ。
8	荒川満枝	ユニット6 人間の多様な価値観とwell-beingを実現するための看護の役割 看護の対象者の well-being を高めるための方策について学ぶ。、well-being を実現する方法を学ぶ。

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講期間
DN111300	基礎	必修	社会規範論	講義	1	15	8	1年次前期
関連するディプロマ・ポリシー NO. 1								
評価責任者及び担当教員								
評価責任者：学生部長 担当教員：永嶋 哲也								
授業の目的とねらい								
看護職が専門職としてより質の高い看護を提供するためには、深い知識と確実な看護技術だけでなく、高い倫理性が不可欠である。この科目は、倫理学の基礎的な学習を通じ、自己に関する規範（私はどのように生きるべきか）と社会的な規範（私たちはどのように生きるべきか）に関する洞察を深めることによって、社会規範に関する意識を向上させることを目的とする。講義では、綱領や宣言などの成り立ちやそれぞれの事例を通して、自分自身で考えを深めながら学修をすすめる。								
到達目標								
全体の到達目標：倫理学の基礎的な学習を通じ、私はどのように生きるべきか、私たちはどのように生きるべきか、に関する洞察を深め、社会規範に関する意識が向上する。								
知識								
1. 看護と倫理の関係について尊厳との関連から説明できる。								
2. 生命倫理学と医療倫理学の関係性について説明できる。								
3. 医療・看護における倫理原則について説明できる。								
4. 医療における平等・無差別と公平・公正について正義原則の観点から説明できる。								
5. 尊厳死について「患者の意思の尊重」の観点から説明できる。								
態度、技能形成								
6. 〈本人の同意〉モデルから〈関係者の合意〉モデルへの変化について考察する。								
7. 患者の権利と自己決定権について、リスボン宣言から考察する。								
8. 臨床倫理学と看護倫理学、その他の医療系倫理学との関係について考察する								
準備学習								
配布資料をもとに予習・復習をする。 予習・復習に必要な時間は全体で 29 時間とする。								
成績評価基準								
記述試験（90%）〔理解度、自分の言葉で正しく説明できているか等で判定する。〕 平常評価（10%）〔授業出席状況と、私語や居眠りしないなどの受講態度とによる〕								
課題等に対するフィードバック								
レポート等の課題は課さない。								
教科書・参考書など								
(教科書) 使用せず。授業においてプリントが詳細資料として配布される。								
(参考書) 参考文献は講義中に紹介される。								
授業内容								
回	担当教員	授業内容						
1	永嶋 哲也	尊厳と基本的人権：人の価値に関する倫理学						
2	永嶋 哲也	生命倫理学の誕生：人命の不可侵性からの転換						
3	永嶋 哲也	生命倫理の四原則と看護実践の倫理原則						
4	永嶋 哲也	正義原則：差別的医療の拒否と医療資源の公正配分						
5	永嶋 哲也	自律尊重原則：「患者の意思の尊重」と尊厳死						
6	永嶋 哲也	同意から合意へ：IC から ACP・SDM へ、EBM から NBM へ						
7	永嶋 哲也	患者の権利：リスボン宣言と自己決定権						
8	永嶋 哲也	臨床倫理と看護倫理						

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講期間
DN111305	基礎	必修	人間の生と死	講義	1	15	8	1年次前期
関連するディプロマ・ポリシー NO. 1								
評価責任者及び担当教員								
評価責任者：学生部長 担当教員：柴村 馨								
授業の目的とねらい								
<p>1年生の前期にあるこの科目は、看護を学ぶ学生として人間の生と死について考え、自らの生命観や死生観を見つめ直し、医療・福祉における様々な倫理的問題から、人間のいのちに関する倫理的な感性を高めることを目標とします。</p> <p>この科目では、テーマに沿った課題レポートを書くことやそれをグループでディスカッションし発表することによって様々な視点や考え方を知り、倫理的に深く考える方法で講義をすすめます。</p> <p>医療・福祉における様々な倫理的問題を取り扱うため、人間のいのちに関連する新聞記事やwebでの情報、関連書籍を自ら読み、いのちに対する自分なりの考えを持ち、講義に臨んでいただくことが望ましいです。</p>								
到達目標								
<p>全体の到達目標： 人間の生と死の尊厳と尊さについて理解し、自らの考えを深めるとともに、現代の医療・福祉におけるいのちに関連する諸問題とその論点について理解し、自分が適切だと考える判断を下し、その判断理由を述べるができる。</p> <p>知識： 1. スピリチュアルケアについて説明できる。 2. 人間の生と死の尊厳と尊さについて自分の言葉で説明できる。</p> <p>態度： 1. いのちの始まりに関する諸問題とその論点について理解し、自分が適切だと考える判断を下し、その判断理由を述べるができる。 2. いのちの終わりに関する諸問題とその論点について理解し、自分が適切だと考える判断を下し、その判断理由を述べるができる。</p> <p>技能形成： 1. 医療・福祉におけるいのちの尊さについて倫理的な考えを持つことができる。</p>								
準備学習								
<p>講義で取り扱う人間のいのちに関連する諸課題についてシラバスで確認し、これら諸課題に対する新聞記事やwebでの情報、関連書籍による情報を集めて授業に臨む。そのための時間は、講義全体に対し29時間程度とする。</p> <p>また、講義後に自分の意見や他者の意見、講義で学んだ内容を自分なりに整理し、ノートを作る。</p>								
成績評価基準								
<p>筆記試験は行わない。 各回で提出するレポート（全8回）（1回目7点、2回目～8回目各11点 小計84点）、出席状況・ディスカッション時の態度（16点）の総合100点で評価する。 全8回のレポートに関しては、以下の点に留意する。 ・講義終了時に提出すること（次週提出可の指示が担当教員からあった場合を除く） ・レポート内容は以下の内容を所定のレポート用紙に記入すること。特に1, 2, 3の内容が充実していること。 <事前準備> 1. テーマに関する事前調査で分かったこと 2. テーマに関する自分の考え <講義・ディスカッション終了後に記入> 3. テーマに関して再考したこと 4. 感想 ・欠席時は、クラスメイトから講義やディスカッションの内容を覚えてもらうこと。その内容を踏まえて、レポートを仕上げ、次回に提出すること ◆減点対象は以下の通り ・レポート未提出、提出期限遅れ ・他者のレポートの丸写し（特に2, 3で判断）←双方減点 ・事前準備をしていないもの ・未記入項目があるもの 以上</p>								
課題等に対するフィードバック								
課題レポート等は、必要時コメントをつけ、適宜返却する。								
教科書・参考書など								
<p>教科書：なし（講義プリント使用）</p> <p>参考書：得丸定子 著 「いのち 教育 スピリチュアリティ」 大正大学出版会 2009年 得丸定子 編著 「「いのち教育」をひもとくー日本と世界」 現代図書 2008年</p>								

授業内容		
回	担当教員	授業内容
1	柴村	ユニット1：人間の尊厳と尊さについて ・授業ガイダンス ・スピリチュアルケアということ
2	柴村	ユニット2：いのちの始まりに関する課題①「出生前診断」 ・出生前診断における現状の課題を理解する ・講義と発表を聞き、自分の考えをまとめる
3	柴村	ユニット2：いのちの始まりに関する課題②「人工妊娠中絶」 ・人工妊娠中絶における現状の課題を理解する ・講義と発表を聞き、自分の考えをまとめる
4	柴村	ユニット2：いのちの始まりに関する課題③「代理母出産」 ・代理母出産における現状の課題を理解する ・講義と発表を聞き、自分の考えをまとめる
5	柴村	ユニット3：いのちの終わりに関する課題①「高齢社会における死とは」 ・高齢社会における死の現状と課題を理解する ・講義と発表を聞き、自分の考えをまとめる
6	柴村	ユニット3：いのちの終わりに関する課題②「安楽死と尊厳死」 ・安楽死と尊厳死についての課題を理解する ・講義と発表を聞き、自分の考えをまとめる
7	柴村	ユニット3：いのちの終わりに関する課題③「終末期医療」 ・終末期医療における現状の課題を理解する ・講義と発表を聞き、自分の考えをまとめる
8	柴村	ユニット4：医療・福祉における、いのちの尊さについて ・いのちを支えるということ ・いつも、誰に対しても、倫理的であるということ

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講期間
DN111401	専門基礎	必修	形態機能学（解剖Ⅰ）	講義	1	30	15	1年次前期
関連するディプロマ・ポリシー NO. 3								
評価責任者及び担当教員								
評価責任者：学生部長 担当教員：畠山雄次、児玉淳								
授業の目的とねらい								
看護においては、対象となる人々の健康な身体構造・機能や疾病を理解するために正常な人体構造の理解が必要である。本科目では、正常人体構造の肉眼的および組織学的基本的知識を、身体の支持および運動の基本となる骨格系と筋系を中心として図解しながらポイントを示した資料を基に学修する。また血液およびリンパ液の流れを脈管の構造とあわせて学修する。								
到達目標								
全体の到達目標：解剖学を学ぶための基礎知識を基に、正常な人体構造の、骨格系・筋系の基本構造、循環器系の構造と血液の循環、細胞の構造と組織について理解できる。								
知識								
1. 解剖学を学ぶための基礎知識について要点を述べる（記述する）ことができる。								
2. 骨格系・筋系の基本構造について述べる（記述する）ことができる。								
3. 頭頸部の骨格・筋について述べる（記述する）ことができる。								
4. 体幹の骨格と筋について述べる（記述する）ことができる。								
5. 上肢の骨格と筋について述べる（記述する）ことができる。								
6. 下肢の骨格と筋について述べる（記述する）ことができる。								
7. 循環器系の構造と血液の循環について述べる（記述する）ことができる。								
8. 細胞の構造と組織について述べる（記述する）ことができる。								
態度、技術形成								
1. 疑問点について質問することができる。								
2. 看護への応用について考えることができる。								
準備学習								
講義前に学修目標および行動目標を確認理解し、予習の項目で指定された教科書の範囲を各自でまとめておくこと。また講義中は聴講により得られた知識を記録すること。さらに講義後は予習において各自でまとめた知識と、聴講により得られた知識を体系化してまとめること。 予習・復習に必要な時間は全体で15時間とする。								
成績評価基準								
筆記試験を総合 100 点で評価する。 課題レポート等については、学習量と理解度で判定する。								
課題等に対するフィードバック								
課題レポート等は、評価後に返却し、評価基準の掲示を行う。								
教科書・参考書など								
<教科書> 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学 医学書院								
<参考書> 「新版 からだの地図帳」講談社								
授業内容								
回	担当教員	授業内容						
1	畠山雄次	ユニット1 細胞と組織 細胞の構造と組織について学ぶ。						
2	児玉淳	ユニット2 解剖学を学ぶための基礎知識について学ぶ。						
3	児玉淳	ユニット3 骨格系・筋系 骨格系・筋系の基本構造について学ぶ。						
4	児玉淳	ユニット3 骨格系・筋系 頭頸部の骨格・筋について学ぶ。						

5	児玉淳	ユニット3 骨格系・筋系 体幹の骨格と筋について学ぶ。
6	児玉淳	ユニット3 骨格系・筋系 体幹の骨格と筋について学ぶ。
7	児玉淳	ユニット3 骨格系・筋系 上肢の骨格と筋について学ぶ。
8	児玉淳	ユニット3 骨格系・筋系 上肢の骨格と筋について学ぶ。
9	児玉淳	ユニット3 骨格系・筋系 下肢の骨格と筋について学ぶ。
10	児玉淳	ユニット3 骨格系・筋系 下肢の骨格と筋について学ぶ。
11	児玉淳	ユニット4 循環器系 循環器系の構造と血液の循環について学ぶ。
12	児玉淳	ユニット4 循環器系 循環器系の構造と血液の循環について学ぶ。
13	児玉淳	ユニット4 循環器系 循環器系の構造と血液の循環について学ぶ。
14	児玉淳	ユニット4 循環器系 循環器系の構造と血液の循環について学ぶ。
15	児玉淳	ユニット4 循環器系 循環器系の構造と血液の循環について学ぶ。

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講期間
DN111405	専門基礎	必修	形態機能学（生理Ⅰ）	講義	1	30	15	1年次前期
関連するディプロマ・ポリシー NO.3								
評価責任者及び担当教員								
評価責任者：学生部長 担当教員：藤田 亜美、鍛冶屋 浩								
授業の目的とねらい								
<p>人体の生命活動のしくみを理解し、看護に必要なフィジカルアセスメントの基礎となる知識を養うために、細胞の基本的な構造と機能、筋、感覚器、中枢神経系や末梢神経系などの機能やそのメカニズムを学ぶ。授業は教科書、配布資料、講義ノートをもとにする。</p>								
到達目標								
<p>全体の到達目標：細胞、神経、筋、感覚器、中枢・末梢神経系、脳の高次機能に関する活動の仕組みを理解できる。</p> <p><知識></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生命現象と生命維持システムの成り立ちについて説明できる。 2. 細胞の構造と機能について説明できる。 3. 神経細胞の構造と機能について説明できる。 4. 感覚器の種類と構造及び機能について説明できる。 5. 筋の構造と機能について説明できる。 6. 中枢神経と末梢神経の構成と機能について説明できる。 7. 脳の高次機能について説明できる。 <p><態度></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 疑問点について質問することができる。 2. 看護への応用について考えることができる。 								
準備学習								
<p>配布資料と講義ノートをもとに講義要点を復習する。教科書や参考書を読み、講義に関連する項目について理解を深める。全体の準備学習時間の目安は約15時間とする。</p>								
成績評価基準								
<p>中間試験（30%）と定期試験（70%）を合わせて100点で評価する。</p>								
課題等に対するフィードバック								
<p>試験の結果は試験終了後に開示し、質問があれば答える。</p>								
教科書・参考書など								
<p><教科書> 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学 医学書院</p> <p><参考書> なるほどなっとく！ 解剖生理学 改訂2版 南山堂 ギャノン生理学 原書26版 丸善出版</p>								
授業内容								
回	担当教員	授業内容						
1	藤田 亜美	ユニット1 生命現象とホメオスタシス						
2	藤田 亜美	ユニット2 細胞の構造と機能（1）						
3	藤田 亜美	ユニット2 細胞の構造と機能（2）						
4	藤田 亜美	ユニット3 神経系の構造と機能（1）						
5	藤田 亜美	ユニット3 神経系の構造と機能（2）						
6	鍛冶屋 浩	ユニット4 感覚器の構造と機能（1）						
7	藤田 亜美	中間試験 1～6回の講義内容を復習する。						

8	藤田 亜美	ユニット4 感覚器の構造と機能（2）
9	藤田 亜美	ユニット4 感覚器の構造と機能（3）
10	藤田 亜美	ユニット5 筋の構造と機能（1）
11	藤田 亜美	ユニット5 筋の構造と機能（2）
12	藤田 亜美	ユニット6 中枢神経系と末梢神経系の構成と機能（1）
13	藤田 亜美	ユニット6 中枢神経系と末梢神経系の構成と機能（2）
14	藤田 亜美	ユニット6 中枢神経系と末梢神経系の構成と機能（3）
15	藤田 亜美	ユニット7 脳の高次機能

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講期間
DN111500	専門基礎	必修	公衆衛生学 I	講義	1	15	8	1 年次前期
関連するディプロマ・ポリシー NO. 3								
評価責任者及び担当教員								
評価責任者：晴佐久悟 担当教員：晴佐久悟								
授業の目的とねらい								
個人、家族、集団の生活環境や生活行動と健康との関係およびヘルスプロモーション、公衆衛生の概念と活動について学び、基本的な公衆衛生について理解する。								
到達目標								
1. 全体像の理解 知識 1) 公衆衛生の概念、公衆衛生の歴史、ヘルスプロモーション、プライマリヘルスケアについて説明できる 2) 公衆衛生の活動対象、公衆衛生の仕組みについて述べるができる。 2. 態度形成 態度 1) 積極的にディスカッションへ参加できる。 3. スキル形成 1) 公衆衛生に関連する疫学、国際保健、および地域歯科保健についてレポートによる発表ができる。								
準備学習								
講義前にシラバスの学習項目ならびに行動目標を理解した上で、教科書の指定された項目（予習の項目）に目を通しておくこと。 学生は課せられる課題や、その他学習活動に約33時間を費やすこと。 講義後は、教科書の図表を中心に、講義内容を復習すること。								
成績評価基準								
筆記試験（80%）、授業態度・課題内容（20%）とし、総合100点で評価する。 課題の締め切りに遅れた場合は評価シートに記載の通り減点されるので、締め切り日に注意する。								
課題等に対するフィードバック								
評価後に返却し解説を行う								
教科書・参考書など								
教科書： 神馬征峰他 著 「系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 健康支援と社会保障制度②」 医学書院 参考書： 標美奈子他 著 「標準保健師講座 公衆衛生看護学概論 ①」 医学書院 小泉俊三他 著 「系統看護学講座 専門基礎分野 総合医療論 健康支援と社会保障制度①」 医学書院								
授業内容								
回	担当教員	授業内容						
1	晴佐久	ユニット1 公衆衛生の概念 1) 公衆衛生の概念について。 2) 公衆衛生の主な歴史について。 3) プライマリヘルスケアについて。 4) ヘルスプロモーションについて。 5) 公衆衛生における看護職の役割について。						
2	晴佐久	ユニット2 疫学・保健統計 集団の健康を捉えるための手法である疫学・保健統計について理解する。 1) 平均寿命、平均余命、健康寿命について説明できる。 2) 死亡率、死因について説明できる。 3) 健康指標の基礎資料となる人口について説明できる。 4) 疫学上の分析・対策の計画・実施について説明できる。						
3	晴佐久	ユニット3 環境と健康 1) 地球温暖化、オゾン層破壊、環境汚染等の環境問題と健康の関係について。 2) 水質・大気・土壌汚染等の環境汚染と健康の関係について。 3) 室内・食品・廃棄物等の身のまわりの環境と健康の関係について。						

4	晴佐久	<p>ユニット 4-1 感染症とその予防対策</p> <p>1) 感染症とその予防の基礎知識について説明できる。</p> <p>2) わが国の感染症予防対策について説明できる。</p> <p>3) 院内感染とその予防について説明できる。</p>
5	晴佐久	<p>ユニット 4-2 感染症とその予防対策</p> <p>1) 公衆衛生上の重要な感染症について説明できる。</p>
6	晴佐久	<p>ユニット 5 国際保健</p> <p>1) 地域における健康格差とその解消のための活動を。</p> <p>2) 国際保健の共通目標について。</p> <p>3) 国際保健に日本が果たす役割を。</p>
7	晴佐久	<p>ユニット 6-1 保健活動</p> <p>1) 母子保健の概要。</p> <p>2) 成人保健の概要。</p> <p>3) 高齢者保健の概要。</p> <p>4) 精神保健の概要。</p>
8	晴佐久	<p>ユニット 6-2 保健活動</p> <p>5) 歯科保健の概要。</p> <p>6) 難病支援・障害者支援の概要。</p> <p>7) 感染症対策の概要。</p> <p>8) 学校保健の概要。</p> <p>9) 産業保健の概要。</p> <p>10) 健康危機管理と災害時における活動の概要。</p>

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講期間
DN111601	専門	必修	看護学概論	講義	1	15	8	1年次前期
関連するディプロマ・ポリシー NO. 1, 2, 3, 4, 7								
評価責任者及び担当教員								
評価責任者：青木久恵 担当教員：青木久恵，門司真由美，三好麻紀								
授業の目的とねらい								
<p>〈授業のねらい〉</p> <p>1年生の前期にあるこの科目では、看護基礎教育の導入として、看護専門職の役割・機能を理解することで、看護学を学ぶ動機づけとなることを目的とする。看護の成立過程とその意義を学び、看護とは何かを考え、看護学の基盤となる「人間」、「環境」、「健康」、「看護」の概念を理論的に理解し、保健・医療・福祉分野における看護専門職として、人々の健康に資することにより最適な生活（well-being）を支援する役割について学習する。</p> <p>〈実務経験を生かした教育内容〉</p> <p>大学附属病院等での成人および高齢者の急性期・回復期病棟における看護師としての実務経験を生かし、看護の対象となる人びとの理解や看護の役割と機能について具体的な事例をもとに教授する。また、看護職者の継続教育および地域包括ケア構築における推進委員の実務経験を生かし、看護職者の教育とキャリア開発および地域住民の健康増進に向けた新たに求められる看護職の役割について教授する。</p>								
到達目標								
<p>1. 全体像の理解 知識</p> <p>看護基礎教育の導入として、看護専門職の役割・機能を理解し、看護とは何かに対する問いに対する自身の考えを表現できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護の定義・概念枠組みについて説明できる。 2) 看護の役割と機能について説明できる。 3) 看護の対象である生活者としての人間と健康の捉え方について説明できる。 4) 職業としての看護が確立した変遷について説明できる。 5) 看護の養成制度と看護職者の教育・キャリア開発について説明できる。 6) 看護サービスの提供のしくみについて説明できる。 7) 看護実践における倫理的問題について説明できる。 8) 国際看護活動について説明できる。 9) 災害時の看護について説明できる。 10) 看護専門職の要件について説明できる。 11) 看護における社会的課題について説明できる。 <p>2. 態度形成 態度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護の対象や看護に対する興味関心を持ち、文献やメディアからの情報を得ようとする。 2) 看護について、自身の考えを表現し、他者とのディスカッションによって自身の考えを発展させることができる。 <p>3. 技能</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護に対する考えについて、レポートにまとめることができる。 2) 課題に関する情報収集を行って、プレゼンテーションに必要な媒体を作成することができる。 3) 課題に関するプレゼンテーションができる。 								
準備学習								
講義前にシラバスで学習項目を確認し、該当する部分の教科書に目を通し、事前課題に取り組んでおく。また、新聞や雑誌・インターネット等を活用し、看護や看護職、看護の対象、国際看護等、学習課題に関する資料を入手し、学習内容の理解に活用する。「地域在宅看護フィールド演習」の科目で看護活動の場を実際に見学した学びを生かし、看護のイメージ化を図りながら、さまざまな看護の対象と看護の役割と機能について理解を深める。予習・復習に必要な時間は、全体で29時間である。								
成績評価基準								
授業態度・課題レポート（10点）および試験（90点）で評価を行う。課題の締め切りに遅れた場合は、減点されるので、締め切り日に注意する。また、課題レポート未提出の場合は、定期試験の再試験受験の際に10点の減点を行う。授業態度には、授業に臨む姿勢、プレゼンテーション、グループ討議などのディスカッションが含まれる。								
課題等に対するフィードバック								
課題等に関するフィードバックは、発表および提出された課題レポートへのコメント等、授業の中で行う。								

教科書・参考書など		
教科書：茂野香おる・長谷川万希子他 著 「系統看護学講座専門分野Ⅰ 基礎看護学（1）看護学概論」医学書院 F、ナイチンゲール、薄井坦子、小玉香津子他訳 「看護覚え書き」 現代社 V.ヘンダーソン、湯楨ます他訳 「看護の基本となるもの」 日本看護協会出版会 日本看護協会監修 「看護者の基本的責務（新版）」、日本看護協会出版会 参考書：V.ヘンダーソン他、稲田八重子他訳：「新版・看護の本質」現代社 佐藤登美編：「看護学概論（新体系看護学第16巻）」メディカルフレンド社		
授業内容		
回	担当教員	授業内容
1	青木久恵	ユニット1 ガイダンス「看護とは何か」 看護学概論の概要を理解した上で、看護の歴史の変遷について学習する。
2	青木久恵	ユニット2 看護の構成概念と看護の役割と機能 看護の構成概念と看護の役割・機能について学ぶ。
3	門司真由美	ユニット3 健康の捉え方（ICF含む） 看護の対象者を生活者として捉え、人間の欲求などを踏まえながら、多様な価値観をもつ存在であることについて学ぶ。
4	三好麻紀	ユニット4 看護活動の場と提供のしくみ さまざまな看護活動の場において、どのような看護活動があるかについて、看護の組織、看護体制を踏まえながら学ぶ。
5	門司真由美	ユニット5 看護の提供者 職業としての看護が確立した変遷について学ぶ。 看護の養成制度と看護職者の教育、キャリア開発について学ぶ。
6	青木久恵	ユニット6 看護における倫理 医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護における倫理の必要性について学ぶ。
7	三好麻紀	ユニット7 広がる看護の活動領域 看護の国際化および災害時の看護について学ぶ。
8	青木久恵	ユニット8 看護専門職の要件と看護における社会的課題 看護専門職の要件について理解し、看護における社会的課題について学ぶ。

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講期間
DN111635	専門	必修	基礎看護技術論演習	演習	1	30	15	1年次前期
関連するディプロマ・ポリシー NO. 1, 2, 3								
評価責任者及び担当教員								
評価責任者：門司真由美 担当教員：門司真由美, 青木久恵, 三好麻紀, 西田彩子, 香山真衣子, 高野佳範								
授業の目的とねらい								
<p>(授業のねらい) 看護において、対象者に技術を提供する際には、対象者の「安全」「安楽」「自立」の視点を踏まえた意図的な関わりが必要である。本科目では、看護を提供する上で基本となる看護技術とは何かを理解し、基本的な看護技術の知識と看護技術修得に向けた基本的態度を養うことを目的とする。</p> <p>(教育方法・学修方法) 本科目では、看護共通技術として、人間関係を構築する上で必要なコミュニケーション技術、対象者と看護師自身の安全を守る、感染予防・安全管理・安楽確保の技術、観察・記録・報告といった看護を継続・実施していくための技術、療養環境を調整する技術を、講義や演習を通して学修し技術を修得する。 本科目は、看護技術の習得も必要な科目であるため、演習項目については、技術に関する動画などで事前にイメージしておく。また、技術は、根拠を踏まえて、自己演習を反復することが必須であり、繰り返し技術練習を重ねることで習得可能となるため、積極的に自己練習をすることを期待している。</p> <p>(実務経験を生かした教育内容) 大学附属病院や公立病院などにおける看護師の実務経験を生かして、援助の人間関係を構築するために有効なコミュニケーションや対象者の安全で快適な生活を守るために必須の共通した技術の要点について基本的な知識・技術・態度を教授する。</p>								
到達目標								
<p>1. 全体像の理解 知識</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護を提供する上で基本となる技術の意味や重要性について述べるができる。 2) 安全を守り、安楽を確保する技術の基本的知識を述べるができる。 3) 環境を整える技術の基本的知識を述べるができる。 <p>2. 態度形成 態度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 基本的なコミュニケーション能力を身に付けることができる。 2) 看護を提供する上で基本的な看護技術の知識と技術を修得する姿勢を養うことができる。 3) 看護技術提供時に、患者に与える影響を意識し行うことができる。 4) グループで協力し、効果的に学習を行う態度で演習に臨むことができる。 5) 技術を振り返り、自己の課題を明確にできる。 <p>3. 技能</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 安全を守る技術や安全を守り、安楽を確保する技術を修得できる。 2) 環境を整える技術を修得できる。 								
準備学習								
講義前にシラバスで授業内容を確認し、該当する内容の教科書に目を通しておく。基礎看護技術に関する予習や自己練習内容を、教科書のQRコードの動画視聴や自己練習を含めて15時間以上の学習を必要とする。								
成績評価基準								
<p>筆記試験（80点）、授業態度・課題（20点）など総合して評価する。但し、再試験（筆記）時、課題提出が80%未満の場合は、素点から20点減点する。</p> <p>筆記試験内容は、各単元の教員の講義中に重要ポイントとして説明を行う。また、看護師国家試験で出題される講義内容に関する基礎看護技術の基本的な知識を問う。</p> <p>課題レポートは、課題出題時に教員が評価ポイントを説明する。講義後の予習・復習課題や看護技術の演習記録が主となり、提出期限に遅れた場合には減点対象とする。また、課題レポート提出日まで質問を受け付ける。</p> <p>態度は、積極的な授業参加や発言など、授業に臨む姿勢が含まれる。</p>								
課題等に対するフィードバック								
提出されたレポートは評価後、各単元担当教員が定期試験前までに返却及び課題に対する解説を行う。								

教科書・参考書など

教科書：

深井喜代子 編 「新体系 看護学全書 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ 第5版」 メヂカルフレンド社
 深井喜代子 編 「新体系 看護学全書 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ 第4版」 メヂカルフレンド社
 任和子、井川順子 編 「根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術」 医学書院
 佐藤和良 著 「看護学生のための物理学」 医学書院

水田祥代、窪田恵子 監修：看護で教える最新の口腔ケア授業・演習、臨床・在宅現場でも、すぐに使える！ー, 大道学館出版部

福岡看護大学「共通編実習要項」

福岡看護大学「基礎看護学実習 実習要項」

福岡看護大学「看護技術経験録」

参考書：

小川鑛一 著 「看護の環境と人間工学」 サイオ出版

授業内容

回	担当教員	授業内容
1	門司真由美	ユニット1：看護技術の基本 ユニット2：対象者との関係を築くための技術 -コミュニケーション
2	三好麻紀	ユニット3：看護を継続して実施していくための技術 -観察・記録・報告
3	西田彩子	ユニット4：安全を守る技術 -スタンダードプリコーション
4	青木久恵	ユニット4：安全を守る技術 -医療安全 -職業的曝露
5	門司真由美	ユニット5：安全を守り、安楽を確保する技術 -ボディメカニクスと安楽の保持
6 7	門司真由美 西田彩子 三好麻紀 香山真衣子 高野佳範	ユニット4・5：安全を守る技術や安全を守り、安楽を確保する技術 -衛生的な手洗い -スタンダードプリコーション -ボディメカニクスの原理と体位変換（寝返り・起上がり）
8	高野佳範 門司真由美	ユニット6：環境を整える技術 -環境アセスメントと環境調整の意義
9 10	高野佳範 門司真由美 三好麻紀 西田彩子 香山真衣子	ユニット6：環境を整える技術 -ベッドメイキングと環境調整
11	門司真由美	ユニット5：安全を守り、安楽を確保する技術 -褥瘡予防
12 13	高野佳範 門司真由美 三好麻紀 西田彩子 香山真衣子	ユニット5・6：安全を守り、安楽を確保する技術、環境を整える技術 -シーツ交換 -環境整備
14 15	西田彩子 西田彩子 門司真由美 三好麻紀 香山真衣子 高野佳範	ユニット4：安全を守る技術 感染予防技術 -無菌操作

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講期間
DN111785	専門	必修	地域在宅看護フィールド演習	演習	1	15	8	1年次前期
関連するディプロマ・ポリシー NO. 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7								
評価責任者及び担当教員								
評価責任者：宮園真美 担当教員：宮園真美 町島希美絵 宮坂啓子 松尾里香 山中富								
授業の目的とねらい								
<p>1年生の前期にあるこの科目では、看護学を学ぶ動機づけとなる体験として初めての学外演習という学習形態で学修をします。学外施設は、病院だけでなく、介護老人保健施設、介護老人福祉施設とし、見学を通して、地域、在宅で生活する対象および家族への看護の概要について理解を深めます。また、生活環境、社会資源や制度在宅ケアチームの多職種協働についても学びを広げます。</p> <p>〈実務経験を生かした教育内容〉 病院施設における看護、地域における公衆衛生看護および訪問看護の経験を活かし、施設や地域で療養する対象者および家族の最適な生活（well-being）を目指した看護実践を指導する。</p>								
到達目標								
<p>1. 知識 ①各施設の目的、特徴、看護の役割について説明できる。 ②地域在宅看護に関連する社会資源や制度の活用を説明できる。</p> <p>2. 態度 ①積極的に見学し、質問や発表ができる。 ②今後の看護への学びのための動機づけとなる。</p> <p>3. 技術 ①見学を通して、学んだことや感想を発表する事ができる。 ②各施設の目的、特徴、看護の役割についてレポートにまとめることができる。</p>								
準備学習								
<p>学生は、必須または推奨される読書、課題、プレゼンテーション準備やその他学習活動に約60分/回を費やすこと。また、授業で配布するプリントや返却された小テストなどについても予習、復習に活用すること。</p>								
成績評価基準								
<p>授業態度・課題内容（20点）とレポート評価（80点）によって総合100点で評価する。 レポートは毎回提出する。課題の締め切りに遅れた場合は減点対象となる。</p>								
課題等に対するフィードバック								
<p>課題レポートなどは、評価後に解説し返却する。</p>								
教科書・在宅看護論（医学書院）、国民衛生動向								
<p>（教科書） なし （参考書） 1) 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 [1] 地域・在宅看護の基盤 医学書院 2) 新体系 看護学全書 専門分野 地域・在宅看護論 地域・在宅看護論 メジカルフレンド</p>								
授業内容								
回	担当教員	授業内容						
1	松尾	<p>ガイダンス 学外実習オリエンテーション 各施設の概要</p>						

2	松尾	1. 病院における看護の見学 1) 院内における看護師の役割を理解する 2) 多職種連携に関わる職種を理解する 3) 病院の機能と設備について理解する
3		
4	宮坂	2. 介護老人保健施設における看護の見学 1) 介護老人保健施設における看護師の役割を理解する 2) 入居者の特徴について理解する 3) 多職種連携について理解する 4) 介護老人保健施設の機能と設備について理解する
5		
6	山中	3. 介護老人福祉施設における看護の見学 1) 介護老人福祉施設における看護師の役割を理解する 2) 入居者の特徴について理解する 3) 多職種連携について理解する 4) 介護福祉保健施設の機能と設備について理解する
7		
8	宮園 町島 松尾	4. 全体発表によって学びの共有を図る. 1) 各施設の特徴と対象者の生活 2) 各施設内における看護職の役割 3) 各施設内の多職種連携 4) 見学して学びとなった内容を他者にわかるようにパンフレットにまとめる 5) 地域、在宅で生活する対象および家族への看護の概要について考察する 6) 今後の看護を学ぶための動機づけとなる体験とする

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講期間
DN112225	基礎	選択	健康科学	講義	2	30	15	1年次前期
関連するディプロマ・ポリシー NO. 1, 2, 3								
評価責任者及び担当教員								
評価責任者：学生部長 担当教員：町田由紀子								
授業の目的とねらい								
健康や身体活動およびスポーツに関する基礎知識を理解するとともに、自己の健康について関心を持ち、健康づくりについて考えることを目的とする。具体的には身体活動・スポーツの意義、発育発達、加齢に伴う体力・身体機能の変化、健康づくりのための効果的な運動、睡眠と健康との関連、食生活と身体活動、健康と栄養などについて、知識を基にして体験を通して学ぶ。また、創造性・協調性・多様性など、円滑なコミュニケーションに必要な方法についてスポーツをとおして実践的に理解し、身に着ける。								
到達目標								
1. 全体像の理解 知識 1) 健康や身体活動およびスポーツに関する基礎知識を理解する。 2. 態度形成 態度 1) 学生は講義に興味を持ち積極的に参加することができる。 2) 演習では挨拶を行い、時間を守り、他者と協力しながら楽しむことができる。 3. 技能 1) この演習を通じて、スポーツ技術およびスポーツを楽しむ態度を身に着ける。 2) この演習を通じて、ウォーミングアップ・クーリングダウンの知識と技術を身に着ける。 3) QOL と健康の関係について理解し説明できる。 4) 疾病構造の変化、生活習慣病の予防と対策について理解し説明できる。 5) 従来の健康施策、今後の健康づくり施策について理解し説明できる。 6) 栄養と運動、睡眠および日常的な健康行動について理解し説明できる。 7) 発育発達・加齢・性差と健康について理解し説明できる。 8) 健康の定義から見た心の健康について理解し説明できる。 9) 疫学的視点、心理・社会学的視点について理解し説明できる								
準備学習								
学生は、授業で配布するプリントを活用して予習・復習に毎週約60分費やすこと。								
成績評価基準								
参加態度を含む平常点 (30 点)、小テスト、課題及び実技試験 (70 点) 計 100 点 課題レポート等については、学習量および理解度で判定する。								
課題等に対するフィードバック								
レポート等は課さない								
教科書・参考書など								
教科書：なし。講義中に資料を配布する。 参考書：九州大学健康科学センター編、「実習で学ぶ健康・運動・スポーツの科学」 大修館書店 (財)健康体力づくり事業財団、「健康運動実践指導者養成テキスト」 (財)健康づくり事業財団								
授業内容								
回	担当教員	授業内容						
1	町田	ユニット1：QOL と健康 ウェルネスと健康観						
2	町田	ユニット2：現代の健康課題（生活習慣病）と現代社会の健康政策（近年の運動指針） 疾病構造の変化、生活習慣病の予防と対策、身体活動による健康づくりエクササイズガイド						
3	町田	ユニット3：健康と栄養・食事 日本人の食事摂取基準						
4	町田	ユニット4：身近な健康問題 喫煙・睡眠・女性の健康と運動						

5	町田	ユニット5：運動と発育発達 子どもの体力の現状と対策
6	町田	ユニット6：加齢と健康づくり 加齢に伴う身体機能の変化と運動
7	町田	ユニット7：健康・運動研究の課題 疫学的視点、心理・社会学的視点
8	町田	ユニット8：健康づくりの知識と技術 健康づくりに必要な知識と技術（運動機能と体力）
9	町田	ユニット8：健康づくりの知識と技術 健康づくりに必要な知識と技術（ジョギングウォーキング）
10	町田	ユニット8：健康づくりの知識と技術 健康づくりに必要な知識と技術（リラクゼーション・コミュニケーションワーク）
11	町田	ユニット9：スポーツ全般の知識と技術 からだ気づき・からだづくり
12	町田	ユニット9：スポーツ全般の知識と技術 レクリエーションスポーツ・ウォーミングアップ・クーリングダウンの知識と技術
13	町田	ユニット9：スポーツ全般の知識と技術 スポーツ技術とウォーミングアップ・クーリングダウンの知識と技術
14	町田	ユニット9：スポーツ全般の知識と技術 スポーツ技術とウォーミングアップ・クーリングダウンの知識と技術
15	町田	ユニット9：スポーツ全般の知識と技術 スポーツ技術とウォーミングアップ・クーリングダウンの知識と技術

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講期間
DN112195	基礎	選択	まちづくり概論	講義	1	15	8	1年次前期
関連するディプロマ・ポリシー NO. 1, 2, 3								
評価責任者及び担当教員								
評価責任者：学生部長 担当教員：田北 雅裕								
授業の目的とねらい								
<p>「まちづくり」における基礎的知識および姿勢を理解するとともに、日々の暮らしの中で生じる地域福祉・医療、地域コミュニティの課題を発見し、多様な主体と協働しながら解決していくための方法についてグループワークや具体例の考察等を通して学修する。</p>								
到達目標								
<p>全体の到達目標：「まちづくり」における基礎的知識および課題解決の方法を理解するとともに社会的孤立を解消する方法について考える。</p> <p>知識</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. グループワークを通して、「まちづくり」とは何かを体感、理解し、「まちづくり」の多様な観点について述べるができる。 2. 「まちづくり」において大切な視点および姿勢を事例を通して理解し、述べるができる。 3. 一般的なまちづくり概念における歴史的施行を学び、概念の特殊性を理解し、述べるができる。 4. 「まちづくり」を実践していく上で具体的な課題解決の方法、調査と会議の技法を理解し、述べるができる。 <p>態度</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 「まちづくり」の中で近年課題となっている社会的孤立の概要について考えることができる。 								
準備学習								
予習・復習に必要な時間は全体で 30 時間とする。(特に準備が必要な授業回については予習欄に別記する。)								
成績評価基準								
出席状況 (10%)、講義における発言・態度 (10%)、講義時の小レポート (30%)、最終レポート (50%)								
課題等に対するフィードバック								
課題は、グループワークディスカッションで、適宜フィードバックする。								
教科書・参考書など								
(教科書) 特になし (参考書) 講義時に適宜示す								
授業内容								
回	担当教員	授業内容						
1	田北 雅裕	「まちづくり」とは何か 「まちづくり」の多様な観点						
2	田北 雅裕	多様な「まちづくり」概念において、大切にすべき視点と姿勢						
3	田北 雅裕	多様な「まちづくり」概念において、大切にすべき視点と姿勢						
4	田北 雅裕	「まちづくり」概念の特殊性について						
5	田北 雅裕	問題解決を目的とした「まちづくり」の技法のポイント						
6	田北 雅裕	「まちづくり」の実践において活用できる調査のポイント 「まちづくり」の実践において活用できる会議のポイント						
7	田北 雅裕	「社会的孤立」とは何か 「社会的孤立」がなぜ生じているのか						
8	田北 雅裕	「社会的孤立」の改善のために必要な視点 「社会的孤立」の解消のための具体的な実践について						

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講期間
DN112230	基礎	選択	社会福祉概論	講義	1	15	8	1年次前期
関連するディプロマ・ポリシー NO. 2, 3, 4, 5								
評価責任者及び担当教員								
評価責任者：学生部長 担当教員：田北 雅裕								
授業の目的とねらい								
保健・医療・福祉サービスの受け手である市民が、正確でわかりやすい情報を得られるための戦略的なコミュニケーション・デザイン技術やこれからの地域共生社会に必要なソーシャルワークの技術について、学修する。								
到達目標								
全体の到達目標：地域共生社会の基礎的な理解を基に、保健・医療・福祉サービスにおけるコミュニケーション・デザインの必要性を知り、広報やヘルスプロモーション、ソーシャルワーク技術の実践との関係を考える。								
知識								
1. 地域共生社会の基礎について、説明できる。								
2. 地域共生社会における課題解決の実践の中で、なぜコミュニケーション・デザインが必要なのか説明できる。								
3. コミュニケーション・デザインの基礎について、説明できる。								
4. 保健・医療・福祉サービスにおけるコミュニケーション・デザインのニーズを社会的孤立の観点から説明できる。								
5. コミュニケーション・デザインの表現技術の基礎（書体、色、レイアウト等）を説明できる。								
6. 地域共生社会において必要とされているソーシャルワーク技術の特徴について説明できる。								
7. 保健・医療・福祉サービスにおける広報およびヘルスプロモーションの理論を説明できる。								
態度・技能形成								
8. 保健・医療・福祉サービスにおける広報およびヘルスプロモーションの具体的実践について知り、考えることができる。								
準備学習								
配布資料をもとに予習・復習をすること。予習・復習に必要な時間は全体で29時間とする。								
成績評価基準								
講義の参加状況、積極性(10%)、講義における発言・態度が適切であるか、(10%)、講義時の小レポートの学習量と的確性(30%)、最終レポート(50%)								
課題等に対するフィードバック								
課題は、グループワークディスカッションで、適宜フィードバックする。								
教科書・参考書など								
(教科書) 特になし (参考書) 講義時に適宜示す								
授業内容								
回	担当教員	授業内容						
1	田北 雅裕	地域共生社会の基礎知識						
2	田北 雅裕	コミュニケーション・デザインの知識や技術が専門家以外でも必要になってきた理由						
3	田北 雅裕	保健・医療・福祉サービスにおけるコミュニケーション・デザインの実践						
4	田北 雅裕	保健・医療・福祉サービスにおけるコミュニケーション・デザインの実践						
5	田北 雅裕	コミュニケーション・デザインにおける表現技術の基礎（書体、色、レイアウト等）の概要						
6	田北 雅裕	ソーシャルワーク技術の基礎知識と一般的理論						
7	田北 雅裕	保健・医療・福祉サービスにおける広報およびヘルスプロモーションの必要性および一般的理論						
8	田北 雅裕	地域共生社会に必要とされているソーシャルワーク技術の実践						

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講期間
DN112235	基礎	選択	国際協力	講義	1	15	8	1年次前期
関連するディプロマ・ポリシー NO.1.2.3.4.7								
評価責任者及び担当教員 宮坂啓子								
評価責任者：宮坂啓子 担当教員：宮坂啓子								
授業の目的とねらい								
<p>国際社会全体の平和と安定、発展のために人々を支援する国際協力について看護の視点で捉えるとともに、国際的協力の取り組みについて理解する。また、途上国における国際協力の現状を知り、途上国での国際協力活動と看護について学び、課題を知る。また、自分たちができる国際協力についてグループで調べ、ディスカッションして、発表することで、幅広い意味での国際協力について考える機会となると考える。</p> <p>〈実務経験を生かした教育内容〉 ニュージーランドで医療通訳者として働いた経験を基に、日本の看護と比較検討し、様々な視点で看護師が行う国際協力や看護活動について教授する。</p>								
到達目標								
<p>1. 全体像の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界を取り巻く情勢を理解し、国際的協力の取り組みについて調べ・発表することができる。 <p>2. 知識・技術の習得</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在の医療における国際情勢について説明できる。 開発協力の概要と健康、保健医療の概念と看護について考える。 国際的な健康問題を説明できる。 世界を取り巻く他職種との協調・協働方法を説明できる。 自分たちができる国際協力について考え、発表することができる。 グループでのディベートやディスカッションを通して、国際協力と看護について学ぶ意義について説明できる。 								
準備学習								
<p>事前学習は各回3～4時間程度。 国際的に使用する用語やその意味について事前に調べる。例えばSDGs、世界の保健医療システム、リプロダクティブヘルス・ケアなど、日常で良く耳にする言葉も意味を理解すると講義内容をより深く理解できると考える。</p>								
成績評価基準								
<p>■グループでのプレゼンテーション(発表)50% ■グループワークでのディスカッション、ディベートなどの参加度30% ■課題レポート・リアクションペーパー20%</p>								
課題等に対するフィードバック								
課題レポートなどは、評価後に解説する。								
教科書・参考書など								
<p>(教科書) なし</p> <p>(参考書) 適宜指示する</p>								
授業内容								
回	担当教員	授業内容						
1	宮坂	国際救援・保健医療分野で活躍する国際協力 1) 国際協力・国際救援について説明 2) 文化を考慮した看護の視点						

2	宮坂	保健医療分野の開発理念の変遷 1) 保険医療分野の開発理念の変遷 2) 世界の健康問題の現状
3	宮坂	国際看護活動における情報収集とアセスメント 1) 国際看護活動の情報収集の方法 2) 医療情報をどのように提供するか (DVD) 3) 国際看護活動における問題点
4	宮坂	開発協力の概要と健康、保健医療の概念と看護 (DVD) 1) 人間の安全保障と健康 2) 開発途上国の健康政策と対策 3) MDGs と SDGs
5	宮坂	開発途上国と看護 1) 貧困と健康 2) 水と保険衛生 3) 子どもの健康 4) 女性の健康 5) 感染症
6	宮坂	世界における災害と難民・国内避難民の現状 1) 世界における災害と難民 2) 国際救援の課題 3) 国際的な緊急支援・協力・役割
7	宮坂	国際的に理解すべき様々な問題と自分たちができる国際協力について、グループでまとめる。 1) 以下の項目に関して国際協力に必要な支援 ①開発と経済 ②紛争と健康 ③栄養 ④リプロダクティブヘルス ⑤健康教育とヘルスシステム ⑥口腔保健について 他 *グループワーク (ディスカッション、ディベート) で発表内容をまとめる。
8	宮坂	国際医療・福祉における看護の役割と国際協力について、自分たちができる国際協力についてのまとめを発表する。 ・国際・看護・協力など抽出キーワードを基に作成したパワーポイントを、グループ全員で担当箇所を発表し、これからの国際協力の課題と展望についてディスカッションして、まとめを行う。

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講期間
DN104390	基礎	自由	看護のための生物学・化学	講義	1	15	8	1年次前期

関連するディプロマ・ポリシー NO. 3

評価責任者及び担当教員

評価責任者：学生部長 担当教員： 藤兼 亮輔（生物）、谷口 卓（化学）

授業の目的とねらい

看護師になるために必要な科学的基礎知識を習得するために、生物学および化学についての基本的項目を学ぶ。

【生物学】

生体を構成する細胞の構造と活動についての基本事項を習得する。

【化学】

生体に関連する物質の性質や化学反応についての基本事項を習得する。

授業は教科書、配布資料をもとにすすめる。

到達目標

全体としての到達目標：看護を実践する上で必要とされる生物学、化学の知識を修得する。

知識（生物学）

1. 細胞を構成する成分と細胞の構造を理解し、述べる（記述する）ことができる。
2. 食物の分解過程と物質代謝によるエネルギー産生を理解し、述べる（記述する）ことができる。
3. 遺伝子の発現、DNA複製、染色体分配を理解し、述べる（記述する）ことができる。
4. 病原体の感染と免疫の仕組みを理解し、述べる（記述する）ことができる。

知識（化学）

5. 原子の電子配置やイオンの種類を理解し、述べる（記述する）ことができる。
6. 物質と気体の体積や溶液の濃度との関係を理解し、述べる（記述する）ことができる。
7. 酸塩基平衡や浸透圧について理解し、述べる（記述する）ことができる。
8. 有機化合物の種類や生体高分子の構造を理解し、述べる（記述する）ことができる。

準備学習

配布資料をもとに講義要点を予習、復習する。毎回、3～4時間を予習・復習にあてる。

成績評価基準

定期試験 90%に受講態度（出席等）10% を合わせて 100 点で評価する。

課題等に対するフィードバック

講義中に演習問題を解答し解説する。試験結果を開示し質問に答える。

教科書・参考書など

（教科書）特に指定しない

（参考書）大学 1 年生のなっとく！生物学 田村隆明著 講談社
 高校生物基礎、高校生物の教科書

授業内容

回	担当教員	授業内容
1	藤兼（生物）	1. 細胞の構成成分、細胞の構造
2	藤兼（生物）	2. 物質の代謝とエネルギー産生
3	藤兼（生物）	3. DNA と遺伝子発現
4	藤兼（生物）	4. 病原体と免疫
5	谷口（化学）	5. 原子の構造とイオン
6	谷口（化学）	6. 物質と気体や水溶液との関係
7	谷口（化学）	7. 水溶液の性質
8	谷口（化学）	8. 生体を構成する有機化合物

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講期間
DN104395	基礎	自由	看護のための数学	講義	1	15	8	1年次前期
関連するディプロマ・ポリシー NO. 3								
評価責任者及び担当教員								
評価責任者：学生部長 担当教員：宮崎 宗親								
授業の目的とねらい								
看護を实践する上で必要とされる数学の知識を知り、活用できることを目的として、具体的な看護の場面で必要とされる基礎的な計算の考え方や医療に出て来る単位の意味について具体的な事例を基に学修し、図や表を利用した自分なりの工夫による問題状況の把握とその解決のための力を身につける。								
到達目標								
全体としての到達目標：看護を实践する上で必要とされる数学の知識を修得する。								
知識								
1. 単位あたりの考え方を理解し、点滴の滴下量の計算などができる。医療に出て来る単位の意味を説明できる。								
2. 濃度の意味を理解し説明できる。								
技術								
1. カロリー計算の基礎を学び、応用問題を解くことができる。								
2. 濃度の意味を理解する。希釈の問題を解くことができる。								
3. 比の関係から必要な薬量などを計算できる。また体格指数や肥満度を求めることができる。								
技能形成								
1. 学んだ知識を使って、応用問題を解くことができる。								
2. 学んだ知識を確認し、確実に計算できる。								
準備学習								
講義前にシラバスの学習項目ならびに行動目標を理解した上で、資料をもとに予習・復習をする。								
予習・復習に必要な時間は全体で 29 時間とする。								
成績評価基準								
定期試験 (100%)								
課題等に対するフィードバック								
講義中に演習問題を解答・解説を行う。適宜質問に回答する。								
教科書・参考書など								
(教科書) 特に指定しない。講義において適宜プリントが詳細資料として配布される。								
(参考書) 講義の中で適宜紹介される。								
授業内容								
回	担当教員	授業内容						
1	宮崎 宗親	ユニット1 単位あたりの量と点滴計算						
2	宮崎 宗親	ユニット2 点滴計算の応用と単位換算						
3	宮崎 宗親	ユニット3 薬液の問題						
4	宮崎 宗親	ユニット3 薬液の問題						
5	宮崎 宗親	ユニット4 酸素ボンベの残量計算						
6	宮崎 宗親	ユニット5 成人・小児看護						
7	宮崎 宗親	ユニット6・7 母性看護・応用						
8	宮崎 宗親	ユニット8 まとめ						

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講期間
DN104400	基礎	自由	看護のための物理学	講義	1	15	8	1年次前期
関連するディプロマ・ポリシー NO. 3								
評価責任者及び担当教員								
評価責任者：青木久恵 担当教員：都留 寛治								
授業の目的とねらい								
物理学の概念・法則を理解し、物理学の科学的エビデンスに基づいた適切な看護行為の判断ができる力を育成する。								
到達目標								
<p>本科目の内容は、高校レベルの物理学の学びなおしではなく、専門分野で学ぶ看護技術に関して物理学的な視点をもとに、人間の身体や医療機器の仕組みを理解し、効果的な力の使い方や適性かつ正確な看護技術について説明でき、場面において判断できる能力を身につけることを目標としている。</p> <ol style="list-style-type: none"> トルクを利用したいろいろな医療器具と適切な使用法を理解し、効率的な力の使い方が説明できる。 さまざまな圧力が人間に及ぼす影響について理解し、次のことを説明できる。 <ol style="list-style-type: none"> ①呼吸のメカニズム ②陽圧と陰圧 ③酸素ポンベの仕組み ④点滴静脈内注射の仕組みと適正に実施できるための条件 ⑤血圧測定技術が血圧値に及ぼす影響を理解し、正確に測定できるための方法について説明できる。 物理的視点から人間の感覚機能について説明できる。 体温を例に、ホメオスタシスについて説明できる。 <p>*看護師国家試験に出題される内容を含むため、自由科目ではあるが、不合格となった場合には再試験を受験し、合格レベルまで理解しておくことが望ましい。</p>								
準備学習								
<p>予習・復習に必要な時間は、全体で 30 時間以上とする。 講義前に下記の表中の単元について予習しておくこと、講義内容を理解しやすくなる。</p>								
成績評価基準								
筆記試験（80%）、課題レポートなどの平常点（20%）								
課題等に対するフィードバック								
予習もしくは復習用課題（ミニ宿題）を課し、解説を授業の中で行う。								
教科書・参考書など								
<p>（教科書） 佐藤和良 看護学生のための物理学第 6 版</p>								
授業内容								
回	担当教員	授業内容						
1	都留 寛治	ユニット 1 1) 力の物体を移動させる能力と回転させる能力 2) 体位変換にトルクを利用させていることについて 3) てこの原理の人体中での応用 4) 重いものを持つときの 5 つの基本						
2	都留 寛治	ユニット 2 1) 効率的なベッド上の患者を起こす方法 2) 看護ボディメカニクスの物理的重点事項						
3	都留 寛治	ユニット 3 1) 力と圧力の違い 2) さまざまな圧力単位があることへの理解および別の圧力単位への換算 3) 看護動作において圧力の理解が必要な例（穿刺や褥瘡等） 4) 気圧が人間に与える影響 5) 入浴とベッドの圧力が人間に与える影響						

4	都留 寛治	<p>ユニット4</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ゲージ圧単位系と絶対圧単位系の違い 2) 吸引の仕組みについて、圧力バランスの観点 3) 胸腔ドレナージにおける圧力調整の意義 4) 看護技術における、サイフォンの原理の活用 5) 酸素ボンベに充填された気体の体積と圧力の関係（ボイルの法則） 6) 酸素ボンベ内の圧力と酸素残量との関係の計算
5	都留 寛治	<p>ユニット5</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 点滴静脈内注射のセッティングにおける諸問題 2) 点滴静脈内注射の流量の調節に影響を及ぼす要因 3) 点滴の所要時間や滴下数の計算 4) 注射のバイアルの操作における圧力と薬液の変化
6	都留 寛治	<p>ユニット6</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 心臓のポンプ機能と血液循環との関係 2) 血圧について 3) 高血圧の原因の物理学的な説明 4) 血圧測定の原理 5) 重力が血圧に及ぼす影響 6) 血圧計の仕組み
7	都留 寛治	<p>ユニット7</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 感覚の対数化と閾値 2) 聴覚の大きさ、高さによる聞こえ方の違い 3) 算術目盛と対数目盛の違い 4) 薬物成分の血中濃度の時間経過による変化 5) キャッチしやすい感覚の条件 6) 視覚の環境への適応能力
8	都留 寛治	<p>ユニット8</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 体温調節のための機能 2) 体温調節のための制御機能 3) 体温異常のメカニズム（発熱とうつ熱の違い） 4) 熱温存の仕組み

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講期間
DN111015	基礎	必修	論理的思考法	演習	1	30	15	1 年次後期
関連するディプロマ・ポリシー NO. 1								
評価責任者及び担当教員								
評価責任者：学生部長 担当教員：満井頌城								
授業の目的とねらい								
<p>「あなたの議論は論理的ではない」とか「どうして論理的に考えられないの？」などと言われたら、良い気持ちがないだろう。議論の際に相手の口を封じるために、ときに悪意をもって使われることのある「論理的」という語であるが、いったい論理的思考法とはどのような考え方を指すのだろうか。その本分は「前提が真であると仮定した場合、そこから論理的に導き出されるもの（結論）は何か」をチェックすることにあるといえる。日常的な場面に即してみると、今手元にある前提が真であると仮定したらどのような結論が出てくるのか、その結論はすでに正しいかどうかチェック済みの情報と矛盾しないかどうかを考えることが、これに当たる。</p> <p>議論において或る特定の話題をめぐって議論の相手と徹底的に対立しているような場面でも、論理的思考法は欠かせない。現時点での自分には正しくないと思われる前提に対し、相手がそれを正しいと主張している場面を想定してみよう。このとき、その前提が真であると仮定すればどのような結論が出てくるのかを吟味することは、相手の主張の首尾一貫性をテストするために必要不可欠な行為となる。単に「相手の前提を否定（拒絶）する」だけでは、「論理的な」批判とはいえないのだ。この演習では或るテーマに対し二つの主張が対立している場面を提示する。その上でグループワークを通じて、各人に上述のような論理的思考の実践をトライしてもらおう。</p>								
到達目標								
<p>1. ケーススタディを通じた論理的思考の実践</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 対立する 2 つの主張の正当性を検討できる。 2) 自分の現在の直感ないし直観が、どちらの立場に近いかを確認できる。 3) その立場を他の問題に適用したとき、どのような帰結がもたらされるかを考察することができる。 <p>2. 科学リテラシー、情報リテラシーの習得</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 科学における「実証」および「反証」とは何かを理解する。 2) 否定的な情報を開示しないことが「相手の立場を尊重する」ことではないことも理解する。 3) 伝えなければならない情報の〈表現の幅〉を広げる。 								
準備学習								
<p>講義前にシラバスの学習項目ならびに行動目標を理解した上で講義に臨むこと。</p> <p>予習・復習に必要な時間は全体で 15 時間とする。</p>								
成績評価基準								
<p>試験（40%）、グループワークの発表（40%）、その他各種ワークを通じての授業への貢献度等（20%）を総合 100 点で評価する。</p>								
課題等に対するフィードバック								
<p>理解度チェックは評価後に返却し、正答の掲示および解説を行う。グループワークの発表に対しては、その都度講評を行う。</p>								
教科書・参考書など								
<p>（教科書） 特に指定しない。適宜プリントを配布する。</p> <p>（参考書）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 伊勢田哲治 et al. (2013) 『科学技術をよく考える：クリティカルシンキング練習帳』, 愛知, 名古屋大学出版会. 2. 伊勢田哲治 (2005) 『哲学思考トレーニング』, 東京, 筑摩書房. 3. 佐藤岳詩 (2021) 『心とからだの倫理学：エンハンスメントから考える』, 東京, 筑摩書房. 4. 菊池聡 (2012) 『なぜ疑似科学を信じるのか：思い込みが生みだすニセ科学』, 京都, 化学同人. 5. 猪谷千香 (2019) 『その情報はどこから？：ネット時代の情報選別力』, 東京, 筑摩書房. 6. ハンス・ザイゼル (佐藤郁哉訳) (2005) 『数字で語る：社会統計学入門』, 東京, 新曜社. 7. 手嶋豊 (2018) 『医事法入門（第 5 版）』, 東京, 有斐閣. 								

授業内容		
回	担当教員	授業内容
1	満井	【二分法と批判的思考】 1) 二分法的思考は便宜上の手段であることを理解する。 2) 論点を整理する上で有用な手段であるが、同時に「論点整理」の落とし穴も理解する。
2-4	満井	【自由主義とパターナリズム】 ケーススタディ 1：喫煙の自由を認めるべきか 1) 相手の私的な領域に踏み込む言動が、相手の自尊心を大きく損なう可能性があることを理解する。 2) 自分が他の趣味・嗜好に関して他者から介入された場合、どのように感じるかを見つめ直す。 3) それらを踏まえた上で、職務上相手に禁煙を積極的に勧めなければならない場合、どのような点に特に配慮しなければならないかを実践的に学ぶ。
5	満井	【疑似科学と認知バイアス】① ケーススタディ 2：血液型性格判断 1) 血液型性格判断には科学的根拠がないということを理解する。 2) 血液型性格判断の愛好者が多い背景を理解する。 3) 相手が楽しんでいるものに対し、否定的な情報を伝える難しさを実感する。
6	満井	【認知バイアスと「意図的ではないフェイク情報】① 1) 「意図的ではないフェイク情報」の発信者になっていないかを見つめ直す。 2) 3D グラフに代表される、悪質な「インフォグラフィックス」の問題点を理解する。
7	満井	【疑似科学と認知バイアス】② →第5講の続き
8	満井	【認知バイアスと「意図的ではないフェイク情報】② →第6講の続き
9-11	満井	【妊娠中絶の生命倫理】① ケーススタディ 3：母体の安全と新生児の安全の利益相反事例 1) 産科医療における胎児保護をめぐるディレンマを考察する。 2) 女性の生殖に関する自己決定権（リプロダクティブ・ライツ）を尊重する立場の主張を理解する。 3) 同時に産科医療の従事者は、胎児保護の責任を放棄することもできないことを理解する。
12	満井	【理解度チェック】 1) 課題から確認される自己の不得意点を各自で見つめ直すことができる。
13	満井	【妊娠中絶の生命倫理】② →第11講の続き
14	満井	【倫理は「役に立つ」ものなのか？】 1) 「倫理観を基盤にする」ことを欠いては、実務上の問題点は可視化されないことを理解する。 2) 職業倫理は職業人の「基盤」であることを理解する。
15	満井	【ピア・エディティング、グループ・ディスカッション】 1) 互いの議論をクリティサイズできる。 2) 得られた批判や意見を受けて、再度情報をフィードバックできる。

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講期間
DN111020	基礎	必修	英語コミュニケーションⅡ（応用）	演習	1	30	15	1年次後期
関連するディプロマ・ポリシー NO. 1, 2, 7								
評価責任者及び担当教員								
評価責任者：学生部長 担当教員：壬生 正博，ニールセン・ピーター								
授業の目的とねらい								
<p>「英語コミュニケーションⅠ」で習得した「聞く力」、「伝える力」、「読む力」の3つの力をさらに高め、英語コミュニケーション・スキルの基盤を発展させることを目的とする。教材はコミュニケーションを図る上で役に立つ日常生活や医療現場を想定したものを選定する。はじめに国際的視野を広げるために英語の会話文や説明文に触れて、語彙、文法、構文などの総合的な面から十分に内容を理解し、英文の音読や暗唱を通じてさらにリスニング、ペアワーク、スピーキングへと応用させ、より実践的な英語コミュニケーション力の向上を目指す。</p>								
到達目標								
<p>全体としての到達目標： 日常生活や医療現場に役立つ基本的な語彙や表現を習得し、使うことができる。</p> <p>知識： 日常生活や医療現場に役立つ基本的な語彙や表現を記述できる。</p> <p>態度・技能形成： 日常生活や医療現場に役立つ基本的な語彙や表現を聞き取り、理解した上で（英語および日本語で）伝えることができる。</p>								
準備学習								
授業前後に教科書やプリントを読み、英語の語彙や文意を調べて、できるだけ多くの英語表現を覚えること。予習・復習に必要な時間は全体で 15 時間とする。								
成績評価基準								
受講態度等：積極性、会話力（10%～ 20%）、中間テストおよび定期試験：英文の理解力、英語表現力（80%～ 90%）として総合 100 点で評価する。								
課題等に対するフィードバック								
課題は特に予定していない。								
教科書・参考書など								
<p>（教科書）New 20 Healthcare Dialogs (Yumi Press)</p> <p>（参考書）Japanese-English dictionary, English-Japanese dictionary</p>								
授業内容								
回	担当教員	授業内容						
1	壬生、ニールセン	<p>ユニット1 電話予約</p> <p>1) 日常生活や医療現場の中の様々な英語表現を聞き取って理解する。</p> <p>2) 聞く、伝える、読むためのコミュニケーションに役立つ基本的な英語慣用表現を身につける。</p>						
2	壬生、ニールセン	<p>ユニット2 受診手続き</p> <p>1) 日常生活や医療現場の中の様々な英語表現を聞き取って理解する。</p> <p>2) 聞く、伝える、読むためのコミュニケーションに役立つ基本的な英語慣用表現を身につける。</p>						
3	壬生、ニールセン	<p>ユニット3 診察の順番待ち</p> <p>1) 日常生活や医療現場の中の様々な英語表現を聞き取って理解する。</p> <p>2) 聞く、伝える、読むためのコミュニケーションに役立つ基本的な英語慣用表現を身につける。</p>						
4	壬生、ニールセン	<p>ユニット4 再診</p> <p>1) 日常生活や医療現場の中の様々な英語表現を聞き取って理解する。</p> <p>2) 聞く、伝える、読むためのコミュニケーションに役立つ基本的な英語慣用表現を身につける。</p>						

5	壬生、ニールセン	<p>ユニット5 入院の指示</p> <p>1) 日常生活や医療現場の中の様々な英語表現を聞き取って理解する。</p> <p>2) 聞く、伝える、読むためのコミュニケーションに役立つ基本的な英語慣用表現を身につける。</p>
6	壬生、ニールセン	<p>ユニット6 入院手続き</p> <p>1) 日常生活や医療現場の中の様々な英語表現を聞き取って理解する。</p> <p>2) 聞く、伝える、読むためのコミュニケーションに役立つ基本的な英語慣用表現を身につける。</p>
7	壬生、ニールセン	<p>ユニット7 患者に質問</p> <p>1) 日常生活や医療現場の中の様々な英語表現を聞き取って理解する。</p> <p>2) 聞く、伝える、読むためのコミュニケーションに役立つ基本的な英語慣用表現を身につける。</p>
8	壬生、ニールセン	<p>中間テスト, etc.</p> <p>1) 日常生活や医療現場の中の様々な英語表現を復習する。</p> <p>2) 聞く、伝える、読むためのコミュニケーションに役立つ基本的な英語慣用表現を身につける。</p>
9	壬生、ニールセン	<p>ユニット8 入浴の許可</p> <p>1) 日常生活や医療現場の中の様々な英語表現を聞き取って理解する。</p> <p>2) 聞く、伝える、読むためのコミュニケーションに役立つ基本的な英語慣用表現を身につける。</p>
10	壬生、ニールセン	<p>ユニット9 薬の指示</p> <p>1) 日常生活や医療現場の中の様々な英語表現を聞き取って理解する。</p> <p>2) 聞く、伝える、読むためのコミュニケーションに役立つ基本的な英語慣用表現を身につける。</p>
11	壬生、ニールセン	<p>ユニット10 検査の指示</p> <p>1) 日常生活や医療現場の中の様々な英語表現を聞き取って理解する。</p> <p>2) 聞く、伝える、読むためのコミュニケーションに役立つ基本的な英語慣用表現を身につける。</p>
12	壬生、ニールセン	<p>ユニット11 内科</p> <p>1) 日常生活や医療現場の中の様々な英語表現を聞き取って理解する。</p> <p>2) 聞く、伝える、読むためのコミュニケーションに役立つ基本的な英語慣用表現を身につける。</p>
13	壬生、ニールセン	<p>ユニット12 外科</p> <p>1) 日常生活や医療現場の中の様々な英語表現を聞き取って理解する。</p> <p>2) 聞く、伝える、読むためのコミュニケーションに役立つ基本的な英語慣用表現を身につける。</p>
14	壬生、ニールセン	<p>ユニット13 小児科</p> <p>1) 日常生活や医療現場の中の様々な英語表現を聞き取って理解する。</p> <p>2) 聞く、伝える、読むためのコミュニケーションに役立つ基本的な英語慣用表現を身につける。</p>
15	壬生、ニールセン	<p>ユニット14 歯科</p> <p>1) 日常生活や医療現場の中の様々な英語表現を聞き取って理解する。</p> <p>2) 聞く、伝える、読むためのコミュニケーションに役立つ基本的な英語慣用表現を身につける。</p>

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講期間
DN111310	基礎	必修	人間関係論	講義	1	15	8	1年次後期
関連するディプロマ・ポリシー NO. 1, 2, 3								
評価責任者及び担当教員								
評価責任者：学生部長 担当教員：中島 俊介								
授業の目的とねらい								
人間や社会の在り方、人格発達論や、人間関係を円滑にするためのコミュニケーションなどを学び、自らの心の働きを理解し、他者理解のための知識や自己抑制できる能力やスキルを得て、他者との関わり方について理解するとともに、優れた実践ができる人格を養う。これらの能力やスキルを通して医療、看護の場で対象との良好な関係性を形成できることを目指している。								
到達目標								
全体の到達目標：人間関係の基盤となる理論を理解した上で、コミュニケーションやケア場面での具体的な人間関係およびカウンセリング技法について説明できるとともに看護ケアに生かす方法や社会的ケアの問題について考える。								
知識								
1) 人間とはどのような存在なのか、人間関係をなぜ考えなければならないか、どのように行うのかを説明できる。								
2) エリクソンの人格発達論を軸とする人格発達理論について説明できる。								
3) 人間関係における社会的相互作用とその役割を知り、ケアにおける具体的な働きについて説明できる。								
4) コミュニケーションとは何かを知り、ケアの場面での有効性を理解し、その現代的進化における問題点について説明できる。								
態度・技能形成								
5) 人間関係の研究手法と体験学習について学ぶ。特にカウンセリングの技法と体験学習はケアの参考にもなるので理解を深め、看護ケアに生かす方法を考える。								
6) 看護における人間関係のうち、特にチーム医療の概念に基づく、広範な人間関係について理解し、それぞれにおけるかわり方について考える。								
7) 看護における人間関係のうち特に対家族の問題を理解する。								
8) ソーシャルサポートとノーマライゼーションという社会的ケアの問題について理解し現状と未来を考える。								
準備学習								
配布資料をもとに予習・復習をする。毎回、予習復習に3～4時間をあてる。								
成績評価基準								
終講時の客観式テスト（70%）、講義中の態度・質問（10%）、課題レポート（20%）など総合評価する。課題レポート等については、学習量および理解度で判定する。								
課題等に対するフィードバック								
特筆すべきレポートを授業中に紹介することでクラス全体のフィードバックを行う								
教科書・参考書など								
(教科書) 系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 (医学書院)。および、講師が作成する資料								
(参考書) <叱る依存>がとまらない 村中直人 著 紀伊国屋書店 2022年								
授業内容								
回	担当教員	授業内容						
1	中島俊介	ユニット1. 人間の存在と人間関係						
2	中島俊介	ユニット2. 人格発達論						
3	中島俊介	ユニット3. 社会的相互作用と社会的役割						
4	中島俊介	ユニット4. コミュニケーション						
5	中島俊介	ユニット5. 人間関係の研究と向上のためのスキル						
6	中島俊介	ユニット6. 看護における人間関係とチーム医療						
7	中島俊介	ユニット7. 家族看護の問題						
8	中島俊介	ユニット8. ソーシャルサポートとノーマライゼーション						

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講期間
DN111315	基礎	必修	家族関係論	講義	1	15	8	1年次後期
関連するディプロマ・ポリシー NO. 1, 2								
評価責任者及び担当教員								
評価責任者：学生部長 担当教員：柴村 馨								
授業の目的とねらい								
この科目では、看護に必要な人間の成長と発達、家族の概念、well-being などに関する知識や考えを養い、社会生活の基盤となる家族の構成やその家族を構成する人々の人間関係と生活に関する基礎的知識を修得することを目指します。看護で遭遇する場面や展開の事例を考えながら学修をすすめます。								
到達目標								
全体像の理解： 家族の構造と機能、家族関係について理解した上で、事例を通して家族関係と看護について自己の考えを深めることができる。								
知識： 1) 家族の構造と機能について説明することができる。 2) 日本における家族の概念の変遷と現代の家族関係について説明することができる。 3) 家族の成長と発達課題について説明することができる。 4) 結婚とパートナー関係について説明することができる。 5) 育児と子育て支援について説明することができる。 6) ワークライフバランスについて説明することができる。 7) 生殖医療技術の発達と新たな家族関係について説明することができる。 8) ドメスティック・バイオレンスについて説明することができる。								
態度形成（態度）： 1) 関連する予習を行ったうえで授業に参加する。 2) 家族の関係性を学ぶ積極的な学修態度を養う。 3) 講義後は、講義中の指定した教科書の項目や図を中心に、講義内容を復習する。								
スキル形成（技能）： 1) 家族に関連する統計情報が示す意味を読み取ることができる。 2) 家族関係における事例や話題を基に、課題探求力を身につけることができる。 3) 与えられた課題に対し、適切な引用文献を用い、自分の考えや資料からの引用を要約し、レポートを作成することができる。								
準備学習								
小児、家族に関する既習の科目について復習を行っておく。授業前にシラバスの該当する部分の教科書を読んでおく。予習・復習に必要な時間は全体で29時間とする。								
成績評価基準								
本科目の学修成果は、主に筆記試験、課題レポート、グループワーク参加状況で確認する。 筆記試験：理解内容の正確性（70%）、課題レポート：理解内容の適切性（20%）、グループワーク、授業への積極性：発言や質問の頻度や適切性（10%）で評価する。毎回のレポートなど提出物の期限が守れなかった場合は減点対象とする。								
課題等に対するフィードバック								
必要に応じて講義内でコメントする								
教科書・参考書など								
教科書：家族看護学第5版 日本看護協会出版会 ※追加資料として配付プリントも用いる								
参考書：系統看護学講座 基礎看護学 医学書院 家族論・家族関係論 医学書院 その他適宜提示する								

授業内容		
回	担当教員	授業内容
1	柴村	ユニット1 授業概要説明・ワークライフバランス ・ワークライフバランスとは ・看護者自身にとってのワークライフバランス
2	柴村	ユニット2 家族を学ぶ意味(pp. 4-33) ・看護における家族理解の意味 ・ドメスティック・バイオレンス
3	柴村	ユニット3 家族の形態と機能(pp. 34-60) ・家族の形態と機能の移り変わり ・生殖医療技術の発達と新たな家族関係
4	柴村	ユニット4 家族の成長と発達課題(pp. 62-107) ・家族を対象とした看護過程 ・情報収集とアセスメントと看護計画
5	柴村	ユニット5 家族看護方法と看護者の役割(pp. 108-144) ・家族看護方法－援助と評価 ・家族看護における看護者の役割
6	柴村	ユニット6 子育て支援を含む家族看護(pp. 148-188) ・乳児をもつ家族への看護 ・重症心身障がい児をもつ家族への看護
7	柴村	ユニット7 精神的サポートの必要な場面の家族看護(pp. 190-248) ・救急・集中治療の場での家族への看護 ・精神疾患をもつ患者の家族への看護
8	柴村	ユニット8 看取りに向けての家族看護(pp. 250-287) ・高齢者介護を行っている家族への看護 ・終末期患者の家族への看護

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講期間
DN111410	専門基礎	必修	形態機能学（解剖Ⅱ）	講義	1	30	15	1年次後期
関連するディプロマ・ポリシー NO. 3								
評価責任者及び担当教員								
評価責任者：学生部長 担当教員：島山雄次、児玉淳、林慶和								
授業の目的とねらい								
看護においては、対象となる人々の健康な身体構造・機能や疾病を理解するために正常な人体構造の理解が必要である。本科目では、必要な正常人体構造の基本的知識を、情報の伝達と処理の基本となる神経系を中心として図解しながらポイントを示した資料を基に学修する。また栄養の消化吸収の機構を消化器系の構造、体液と尿の産生を泌尿器系の構造、呼吸の機構を呼吸器系の構造、および人体の発生過程を生殖器の構造とあわせて学修する。								
到達目標								
全体の到達目標：正常な人体構造の、神経系の基本構造、内分泌系、消化器系、泌尿器系、生殖器系の構造と、受精と胎児の発生について理解できる。								
知識								
1. 神経系の基本構造について述べる（記述する）ことができる。								
2. 脳・脊髄について述べる（記述する）ことができる。								
3. 脳神経について述べる（記述する）ことができる。								
4. 脊髄神経について述べる（記述する）ことができる。								
5. 伝導路について述べる（記述する）ことができる。								
6. 自律神経系について述べる（記述する）ことができる。								
7. 内分泌系について述べる（記述する）ことができる。								
8. 感覚器について述べる（記述する）ことができる。								
9. 呼吸器系の構造について述べる（記述する）ことができる。								
10. 消化器系の構造について述べる（記述する）ことができる。								
11. 泌尿器系の構造について述べる（記述する）ことができる。								
12. 男性生殖器について述べる（記述する）ことができる。								
13. 女性生殖器について述べる（記述する）ことができる。								
14. 受精と胎児の発生について述べる（記述する）ことができる。								
態度								
1. 疑問点について質問することができる。								
2. 看護への応用について考えることができる。								
準備学習								
講義前に学修目標および行動目標を確認理解し、予習の項目で指定された教科書の範囲を各自でまとめておくこと。また講義中は聴講により得られた知識を記録すること。さらに講義後は予習において各自でまとめた知識と、聴講により得られた知識を体系化してまとめること。 予習・復習に必要な時間は全体で15時間とする。								
成績評価基準								
定期試験（100点）で評価を行う。シラバスから予習を行い、講義で学び、講義内容を確実に板書し、講義後の復習を徹底し到達目標を達成できること。								
課題等に対するフィードバック								
自分が疑問に感じる内容は他人にとっても疑問であるので、疑問を学年全体で共有するために積極的に講義時等に質問を行う事。								
教科書・参考書など								
<教科書> 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学 医学書院								
<参考書> 「新版 からだの地図帳」講談社								
授業内容								
回	担当教員	授業内容						
1	児玉淳	ユニット1 神経系の基本構造について学ぶ。 脳・脊髄について学ぶ。						

2	児玉淳	ユニット1 脳神経について学ぶ。
3	児玉淳	ユニット1 脊髄神経について学ぶ。
4	児玉淳	ユニット1 脊髄神経について学ぶ
5	児玉淳	ユニット1 脊髄神経について学ぶ
6	児玉淳	ユニット1 伝導路について学ぶ。
7	児玉淳	ユニット1 自律神経系について学ぶ。
8	児玉淳	ユニット2 自律神経系について学ぶ。
9	児玉淳	ユニット2 内臓系について学ぶ。
10	児玉淳	ユニット3 呼吸器系の構造について学ぶ。
11	児玉淳	ユニット4 咽頭・喉頭，摂食嚥下について学ぶ。
12	林慶和	ユニット5 消化器系の構造について学ぶ。
13	林慶和	ユニット5 消化器系の構造について学ぶ
14	畠山雄次	ユニット6 泌尿器系の構造について学ぶ。 内分泌器系について学ぶ。
15	畠山雄次	ユニット7 男性生殖器について学ぶ。 女性生殖器について学ぶ。 受精と胎児の発生について学ぶ。 感覚器について学ぶ。

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講期間
DN111415	専門基礎	必修	形態機能学（生理 II）	講義	1	30	15	1 年次後期
関連するディプロマ・ポリシー NO.2								
評価責任者及び担当教員								
評価責任者：学生部長 担当教員：藤田 亜美、鍛冶屋 浩、進 正史								
授業の目的とねらい								
人体の生命活動のしくみを理解し、看護に必要なフィジカルアセスメントの基礎となる知識を養うために、血液、心臓、呼吸、消化管、腎臓、自律神経、内分泌、体温調節などに関する機能やそのメカニズムを学ぶ。授業は教科書、配布資料、講義ノートをもとにすすめる。								
到達目標								
全体の到達目標：血液、心臓、呼吸、消化管、腎臓、自律神経、内分泌、体温調節に関する機能やメカニズムを理解できる。								
<知識>								
1. 血液の成分と機能について説明できる。								
2. 心臓の機能とその調節機序について説明できる。								
3. 血液循環とその調節機序について説明できる。								
4. 呼吸運動の仕組みについて説明できる。								
5. ガス交換と呼吸の調節機序について説明できる。								
6. 消化管の構成と消化機能について説明できる。								
7. 消化酵素の働きと栄養素の吸収について説明できる。								
8. 体温の調節機序について説明できる。								
9. 腎臓の機能と排尿機序について説明できる。								
10. 自律神経による内臓機能の調節機序について説明できる。								
11. 内分泌系による内臓機能の調節機序について説明できる。								
<態度>								
1. 疑問点について質問することができる。								
2. 看護への応用について考えることができる。								
準備学習								
配布資料と講義ノートをもとに講義要点を復習する。教科書や参考書を読み、講義に関連する項目について理解を深める。全体の準備学習時間の目安は約15時間とする。								
成績評価基準								
中間試験（30％）と定期試験（70％）を合わせて100点で評価する。								
課題等に対するフィードバック								
試験の結果は試験終了後に開示し、質問があれば答える。								
教科書・参考書など								
<教科書>								
系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学 医学書院								
<参考書>								
なるほどなっとく！ 解剖生理学 改訂2版 南山堂								
ギャノン生理学 原書 26版 丸善出版								
授業内容								
回	担当教員	授業内容						
1	藤田 亜美	ユニット1 血液の組成と機能（1）						
2	藤田 亜美	ユニット1 血液の組成と機能（2）						
3	藤田 亜美	ユニット2 血液循環とその調節（1）						
4	藤田 亜美	ユニット2 血液循環とその調節（2）						

5	藤田 亜美	ユニット3 呼吸運動とガス交換（1）
6	藤田 亜美	ユニット3 呼吸運動とガス交換（2）
7	藤田 亜美	中間試験 1～6回の講義内容を復習する。
8	藤田 亜美	ユニット4 消化と吸収（1）
9	藤田 亜美	ユニット4 消化と吸収（2）
10	藤田 亜美	ユニット5 体温の調節
11	進 正史	ユニット6 体液の調節と尿の生成（1）
12	進 正史	ユニット6 体液の調節と尿の生成（2）
13	鍛冶屋 浩	ユニット7 内臓機能の調節（1）
14	鍛冶屋 浩	ユニット7 内臓機能の調節（2）
15	鍛冶屋 浩	ユニット7 内臓機能の調節（3）

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講期間
DN111420	専門基礎	必修	形態機能学演習	演習	1	15	8	1年次後期
関連するディプロマ・ポリシー NO. 3								
評価責任者及び担当教員								
評価責任者：学生部長 担当教員：畠山雄次、児玉淳、林慶和								
授業の目的とねらい								
本講義では、解剖見学を通して人体を構成する諸器官の位置関係を三次元空間で理解し、看護に必要な解剖学的知識を修得するとともに、人間の尊厳について深く考えることを目的とする。教育方法として解剖見学に加えて教科書、配布プリント、およびコンピュータープロジェクションによる解説講義を実施し、学生の学修力の向上を目指す。								
到達目標								
1. 全体像の理解 知識 1) 人体を構成する諸器官に関する基礎知識と看護に必要な解剖学的知識を理解し説明できる。 2. 態度形成 態度 1) 学生は解剖見学や講義に積極的に参加することができる。 3. 技能 1) 体表からみた人体の構造を理解し説明できる。 2) 看護に必要な浅層の脈管・神経分布を理解し説明できる。 3) 看護に必要な深層の主要血管の分布を理解し説明できる。 4) 看護に必要な主要抹消神経の分布を理解し説明できる。 5) 脳と脊髄の肉眼構造を理解し説明できる。 6) 看護に必要な深層の筋の分布と関節の構造を理解し説明できる。 7) 看護に必要な胸腹部内臓の肉眼分布を理解し説明できる。 8) 看護に必要な腹部内臓の肉眼分布を理解し説明できる。								
準備学習								
予習・復習に必要な時間は全体で 29 時間とする。学生は授業で配布するプリントを予習と復習で活用すること。								
成績評価基準								
筆記試験 (20%)、御遺体を対象とした実習試験 (70%)、レポートおよび実習態度 (10%) で評価する。								
課題等に対するフィードバック								
課題レポート等は、評価後に返却し、評価基準の掲示を行う。								
教科書・参考書など								
教科書：系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学 医学書院 参考書：必要に応じて講義の中で紹介する。								
授業内容								
回	担当教員	授業内容						
1	畠山、児玉、林	ユニット1：体表からみた人体の構造 体表からみた人体の構造について						
2	畠山、児玉、林	ユニット2：浅層の脈管と神経 浅層の脈管と神経分布について						
3	畠山、児玉、林	ユニット3：触診できる筋 触診できる筋とは						
4	畠山、児玉、林	ユニット4：主要血管 主要な血管の分布について						
5	畠山、児玉、林	ユニット5：主要神経 主要な神経の分布、脳と脊髄の肉眼構造について						
6	畠山、児玉、林	ユニット6：深層の筋 深層の筋の分布について						
7	畠山、児玉、林	ユニット7：内臓学 胸腹部内臓の肉眼分布について						
8	畠山、児玉、林	ユニット7：内臓学 腹部内臓の肉眼分布について						

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講期間
DN111451	基礎	必修	薬理学	講義	2	30	15	1年次後期
関連するディプロマ・ポリシー NO. 3								
評価責任者及び担当教員								
評価責任者：学生部長 担当教員：大久保つや子								
授業の目的とねらい								
<p>〈授業のねらい〉薬物療法（薬物による治療）は疾患治療の根幹をなす治療法である。薬物治療において、看護師は、正しく与薬（薬を与えること）するための確認や管理、服薬指導、直接的な与薬の実施などを医師の指示のもと行う。患者にもっとも近いところで薬の作用と副作用を観察し、治療にフィードバックしていく重要な立場となることが求められる。また、薬物処置の最終段階を担うのが看護師であり、この段階では他者によるチェック機能が働かず、医療事故の当事者となることがある。</p> <p>与薬後の患者における有害作用の有無を観察する際には、処置薬に関する知識が必要である。与薬の際に起きる医療事故は、十分な薬理作用・副作用を知ることで避けられる。特に過量投与で致死的な状況がもたらされるような薬物については、その副作用と用量の関係性をしっかり学ぶことが重要である。</p> <p>この授業において、薬が投与されそして吸収されてからどのような運命をたどって作用部位に到達し、効力を発揮し、代謝されて、そして排泄されるかについて学ぶことで、与薬後、薬が作用して効力を失うまでの間、患者さんの身体で起きる変化の観察に科学的根拠を持って関わるができる。また、主な病気に使用される治療薬の作用の仕組みや作用の特徴、そして副作用の知識を持つことで患者さんを守り、医療事故を防ぐことができる。</p> <p>〈教育方法・学修方法〉講義資料を事前に配布して、パワーポイントを用いた講義形式で実施する。講義資料は、重要なキーワードなどを空白としており、講義を聴くことで資料が完成するようになっている。毎回、授業内容に即した小テストを実施するので、その都度学んだ知識や理解度を確認することができるようになっている。また、提出課題に取り組むことで学修の強化を目指す。</p> <p>〈事前に履修しておくことが望ましい科目やスキル〉形態機能学（生理学、解剖学）や病態疾病論が、薬物療法の基礎となる知識であるので、しっかり学修して欲しい。</p>								
到達目標								
<p>1. 全体像の理解</p> <p>1) 臨床において使用される薬の特徴と薬物療法の知識を習得する。</p> <p>2. 知識・態度・技能形成</p> <p>1) 薬物の投与から排泄までの体内での動態を説明できる。</p> <p>2) 薬物療法の科学的根拠となる薬の作用の仕組みを説明できる。</p> <p>3) 薬物療法において患者や自身を守るための副作用・有害作用を説明できる。</p>								
準備学習								
<p>学生は、事前に配布された授業資料を活用した予習・復習、提出課題の作成および返却された課題の復習、その他の学習活動に全体で60時間を費やすこと。</p>								
成績評価基準								
<p>授業の復習や知識の整理の目的で、随時、課題およびGoogleFormによる小テストを課す。定期試験時には、理解度および知識の確認の目的で、授業プリントや課題で示した国試形式問題を改変したマークシート試験を実施する。それぞれ、各50%として評価する。記述式課題は、根拠がきちんと述べられているかが採点のポイントである。締め切りに遅れた場合は、当該の課題点を1/2に減点するので締め切りに注意する。</p>								
課題等に対するフィードバック								
<p>小テストはその都度、正解を提示し、簡単な解説をする。提出課題は評価後に返却し、正答の掲示および解説を行う。</p>								
教科書・参考書など								
<p>〈教科書〉吉岡 充弘／泉 剛／井関 健／横式 尚司／菅原 満 著 「薬理学 第15版 疾病のなりたちと回復の促進[3]」医学書院 2022</p> <p>〈参考書〉田中 千賀子／加藤 隆一／成宮 周 編 「NEW薬理学 改訂第7版」南江堂 2017年、中原 保裕 著 「処方わかる医療薬理学 2022-2023」学研メディカル秀潤社 2022年、田中 越郎 著 「イラストでまなぶ薬理学 第3版」医学書院 2016年</p>								
授業内容								
回	担当教員	授業内容						
1	大久保つや子	ユニット1 薬理学総論 薬理学の基礎知識、薬物療法について学ぶ						

2	大久保つや子	薬の生体内運命（薬物動態）を学ぶ 高齢者の薬物動態の特徴を知る
3	大久保つや子	薬物効果に影響する因子について学ぶ
4	大久保つや子	薬物の危険性について学ぶ
5	大久保つや子	ユニット2 抗感染症薬について学ぶ。
6	大久保つや子	抗癌薬について学ぶ。
7	大久保つや子	免疫治療薬について学ぶ。
8	大久保つや子	抗アレルギー薬・抗炎症薬について学ぶ。
9	大久保つや子	末梢神経作用薬について学ぶ。
10	大久保つや子	中枢神経作用薬について学ぶ。その1
11	大久保つや子	中枢神経作用薬について学ぶ。その2
12	大久保つや子	心臓・血管系に作用する薬について学ぶ。その1
13	大久保つや子	心臓・血管系に作用する薬について学ぶ。その2
14	大久保つや子	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬について学ぶ。
15	大久保つや子	物質代謝に作用する薬について学ぶ。

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講期間
DN111430	専門基礎	必修	病態疾病論 I	講義	2	30	15	1 年次後期
関連するディプロマ・ポリシー NO. 2								
評価責任者及び担当教員								
評価責任者：岡田 賢司 担当教員：岡村 和彦、岡田 賢司、得能 智武、青野 広子								
授業の目的とねらい								
<p>病態疾病論 I から V までの 5 つの科目で完結する科目構成になっている。</p> <p>病態疾病論 I で、様々な疾病の成り立ちについて、細胞レベルでどのようなことが起きているのか、また生体組織はどう変化（炎症やアレルギー反応など）するのかを学ぶことから始まる。</p> <p>病態疾病論 II から IV にかけては、呼吸器や循環器などの臓器別に、臨床で扱うことが多い病気の特徴や検査・診断、そして治療法について順次学んでいく。</p> <p>病態疾病論 V では、臓器別だけでなく、女性を対象とした妊娠、分娩などに関する経過や特徴と女性特有の疾患、および主な脳神経疾患や精神疾患について学ぶ。</p> <p>看護実践に生かせるように、各ユニットの終わりには主な疾患と看護とのつながりを学ぶ回を設けていますので、病気の理解をした後に、それに対してどのような看護を展開していけばよいかセットで学べる構成になっているのが特徴である。</p> <p>この科目の受講によって、臨地実習時に患者さんを受け持った際に、対象者の疾患の特徴の理解や、それに対する看護実践へ取り組みが十分にできるようになることにつながる知識の修得を目指している。</p> <p>板書、パワーポイント、プリントを使用した教育を行う。</p> <p>この科目では、生物学、生理学や解剖学の知識が必要となる。</p>								
到達目標								
<p>1. 全体像の理解 知識</p> <p>1) 主な疾患の特徴、検査・診断、治療法、それらに対する看護の関わりを理解できる。</p> <p>2. 態度形成 態度</p> <p>1) 臓器の働きと疾患、疾患とそれに対する看護を考えることなど、それぞれの関連を応用できるようになる。</p> <p>3. スキル形成</p> <p>1) 細胞の障害と細胞死、組織の修復・再生について説明できる。</p> <p>2) 炎症の分類・組織の局所の変化と全身的变化について説明できる。</p> <p>3) 循環障害・血行障害の病因・病態について説明できる。</p> <p>4) 先天異常と遺伝子異常について説明できる。</p> <p>5) 腫瘍の分類、分化、グレード、ステージについて説明できる。</p> <p>6) 主な血液造血器疾患の検査・診断・治療について、病態と関連させて説明できる。</p> <p>7) 血液・造血器疾患と看護のつながりを考えることができる。</p> <p>8)</p>								
準備学習								
学生は、学習活動に約 240 分/週を費やすこと。また、授業で配布するプリントや返却された小テストなどについても予習、復習に活用すること。								
成績評価基準								
試験 90%および出席・態度 10%の割合で 100 点とする。								
課題等に対するフィードバック								
課題については、模範解答や模範的な説明をフィードバックし、振り返りを行わせる。								
教科書・参考書など								
<p>教科書：大橋健一 著 「系統看護学講座 専門基礎分野 病理学」 医学書院</p> <p>田中越郎 著 「系統看護学講座 専門基礎分野 病態生理学」 医学書院</p> <p>飯野 京子他 著 「系統看護学講座 成人看護学 4 血液・造血器」 医学書院</p> <p>参考書：矢永勝彦他編 「系統看護学講座 別巻 1 臨床外科学総論」 医学書院</p>								
授業内容								
回	担当教員	授業内容						
1	岡村	<p>ユニット 1: 疾病と病理学</p> <p>1) 病態疾病論のガイダンス 病理学の意義を学ぶ</p> <p>2) 病理と病気の関連から疾病の成り立ちを学ぶ</p>						

2	岡村	ユニット2: 細胞の障害と細胞死、組織の修復・再生
3		1)細胞の変性と壊死、細胞の障害(萎縮・変性・肥大)について学ぶ 2)細胞死(ネクロシス・アポトーシス)について学ぶ 3)組織の修復と再生について学ぶ 4)創傷治癒、過形成について学ぶ
4	岡田	ユニット4: 先天異常と遺伝子異常 1)遺伝的多様性について学ぶ 2)遺伝子異常・先天異常について(代表的な疾患)について学ぶ
5	岡村	ユニット3: 炎症 1)炎症について学ぶ 2)炎症の分類・組織の局所変化と全身的变化について学ぶ 3)感染症による炎症的变化について学ぶ
6	岡田	ユニット5: 血液・造血器疾患 1)血液・造血器疾患の主な症状の病態を学ぶ 主な症状: 貧血、出血傾向、白血球減少症、血球貪食症候群、骨髄異形成症候群、播種性血管内凝固(DIC)等 2)血液・造血器系の主な疾患の病態・診断・治療を学ぶ 主な疾患: 白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、特発性血小板減少性紫斑病、血友病
7	得能	ユニット6: 循環障害 1)循環障害について学ぶ 2)血行障害(虚血・充血・うっ血・出血)について学ぶ 3)血栓症・塞栓症・梗塞の病因・病態について学ぶ
8	岡村	ユニット3: 炎症 1)炎症について学ぶ 2)炎症の分類・組織の局所変化と全身的变化について学ぶ 3)感染症による炎症的变化について学ぶ
9	得能	ユニット6: 循環障害 1)循環障害について学ぶ 2)血行障害(虚血・充血・うっ血・出血)について学ぶ 3)血栓症・塞栓症・梗塞の病因・病態について学ぶ
10	岡村	ユニット7: 腫瘍 1)腫瘍について(良性腫瘍と悪性腫瘍)学ぶ 2)腫瘍(分類、分化、グレード、ステージ)について学ぶ 3)浸潤と転移について学ぶ
11	岡田	ユニット5: 血液・造血器疾患 1)血液・造血器疾患の主な症状の病態を学ぶ 主な症状: 貧血、出血傾向、白血球減少症、血球貪食症候群、骨髄異形成症候群、播種性血管内凝固(DIC)等 2)血液・造血器系の主な疾患の病態・診断・治療を学ぶ 主な疾患: 白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、特発性血小板減少性紫斑病、血友病
12	岡村	ユニット7: 腫瘍 1)腫瘍について(良性腫瘍と悪性腫瘍)学ぶ 2)腫瘍(分類、分化、グレード、ステージ)について学ぶ 3)浸潤と転移について学ぶ
13	岡田	ユニット5: 血液・造血器疾患 1)血液・造血器疾患の主な症状の病態を学ぶ 主な症状: 貧血、出血傾向、白血球減少症、血球貪食症候群、骨髄異形成症候群、播種性血管内凝固(DIC)等 2)血液・造血器系の主な疾患の病態・診断・治療を学ぶ 主な疾患: 白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、特発性血小板減少性紫斑病、血友病
14	岡村	ユニット7: 腫瘍 1)腫瘍について(良性腫瘍と悪性腫瘍)学ぶ 2)腫瘍(分類、分化、グレード、ステージ)について学ぶ 3)浸潤と転移について学ぶ
15	青野	ユニット8: 疾患と看護とのつながり 1)血液・造血器疾患と看護とのつながりを学ぶ

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講期間
DN111435	専門基礎	必修	病態疾病論Ⅱ	講義	2	30	15	1年次後期
関連するディプロマ・ポリシー NO. 2								
評価責任者及び担当教員								
評価責任者：岡田 賢司 担当教員：岡田 賢司、得能 智武、青木 久恵、松元 幸一郎、宮園 真美								
授業の目的とねらい								
<p>病態疾病論ⅠからⅤまでの5つの科目で完結する科目構成になっている。</p> <p>病態疾病論Ⅰで、様々な疾病の成り立ちについて、細胞レベルでどのようなことが起きているのか、また生体組織はどう変化（炎症やアレルギー反応など）するのかを学ぶことから始まる。</p> <p>病態疾病論ⅡからⅣにかけては、呼吸器や循環器などの臓器別に、臨床で扱うことが多い病気の特徴や検査・診断、そして治療法について順次学んでいく。</p> <p>病態疾病論Ⅴでは、臓器別だけでなく、女性を対象とした妊娠、分娩などに関する経過や特徴と女性特有の疾患、および主な脳神経疾患や精神疾患について学ぶ。</p> <p>看護実践に生かせるように、各ユニットの終わりには主な疾患と看護とのつながりを学ぶ回を設けていますので、病気の理解をした後に、それに対してどのような看護を展開していけばよいかセットで学べる構成になっているのが特徴である。</p> <p>この科目の受講によって、臨地実習時に患者さんを受け持った際に、対象者の疾患の特徴の理解や、それに対する看護実践へ取り組みが十分にできるようになることにつながる知識の修得を目指している。</p> <p>板書、パワーポイント、プリントを使用した教育を行う。</p> <p>この科目では、生物学、生理学や解剖学の知識が必要となる。</p>								
到達目標								
<ol style="list-style-type: none"> 全体像の理解 知識 <ol style="list-style-type: none"> 1) 主な疾患の特徴、検査・診断、治療法、それらに対する看護の関わりを理解できる。 態度形成 態度 <ol style="list-style-type: none"> 1) 臓器の働きと疾患、疾患とそれに対する看護を考えることなど、それぞれの関連を応用できるようになる。 スキル形成 <ol style="list-style-type: none"> 1) 主な免疫系・アレルギー系疾患の病態・診断・治療について説明できる。 2) 小児・成人・老年期における主な感染症の病態・診断・治療および予防策（予防接種を含む）について説明できる。 3) 主な呼吸器系疾患の診断・治療について病態と関連させて説明できる。 4) 呼吸器系疾患と看護のつながりを考えることができる。 5) 主な循環器系疾患の検査・診断・治療について病態と関連させて説明できる。 6) 循環器系疾患と看護のつながりを考えることができる。 								
準備学習								
学生は、学習活動に約240分/週を費やすこと。また、授業で配布するプリントや返却された小テストなどについても予習、復習に活用すること。								
成績評価基準								
試験90%および出席・態度10%の割合で100点とする。								
課題等に対するフィードバック								
課題については、模範解答や模範的な説明をフィードバックし、振り返りを行わせる。								
教科書・参考書など								
<p>教科書：大橋健一 著 「系統看護学講座 専門基礎分野 病理学」 医学書院 出版年</p> <p>田中越郎 著 「系統看護学講座 専門基礎分野 病態生理学」 医学書院</p> <p>川村雅文他 著 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学2呼吸器」 医学書院</p> <p>吉田俊子他 著 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学3循環器」 医学書院</p> <p>岩田健太郎他著 「系統看護学講座 成人看護学11アレルギー 膠原病 感染症」 医学書院</p> <p>参考書：特に指定しない</p>								
授業内容								
回	担当教員	授業内容						
1	得能	ユニット1: 循環器疾患						
2		1) 循環器疾患の主要な症状や障害の病態を学ぶ 主な症状や障害：心不全、不整脈、血圧異常、ショック、チアノーゼ						

3		2)循環器内科系の主な疾患の病態・診断・治療を学ぶ 主な疾患：虚血性心疾患、動脈疾患、静脈疾患、控滅症候群
4		3)循環器外科系の主な疾患の病態・診断・治療を学ぶ 主な疾患：弁膜症、心筋・心膜疾患、先天性心疾患
5	岡田	ユニット2：免疫・アレルギー・感染症 1)免疫系、感染防御系の健康障害と生体の反応を学ぶ 2)自己免疫疾患、アレルギー性疾患、免疫不全症の病態・診断・治療を学ぶ 3)小児・成人・老年期における主な感染症の病態・診断・治療および予防策（予防接種を含む）を学ぶ
6	得能	ユニット1：循環器疾患 1)循環器疾患の主要な症状や障害の病態を学ぶ 主な症状や障害：心不全、不整脈、血圧異常、ショック、チアノーゼ 2)循環器内科系の主な疾患の病態・診断・治療を学ぶ 主な疾患：虚血性心疾患、動脈疾患、静脈疾患、控滅症候群 3)循環器外科系の主な疾患の病態・診断・治療を学ぶ 主な疾患：弁膜症、心筋・心膜疾患、先天性心疾患
7	松元	ユニット3：呼吸器疾患 1)呼吸器疾患の症状や障害の病態を学ぶ 主な症状：息切れ、咳嗽、喀痰、胸痛 主な障害：呼吸性アシドーシス・呼吸性アルカローシス、呼吸不全、肺循環障害
8	岡田	ユニット2：免疫・アレルギー・感染症 1)免疫系、感染防御系の健康障害と生体の反応を学ぶ 2)自己免疫疾患、アレルギー性疾患、免疫不全症の病態・診断・治療を学ぶ 3)小児・成人・老年期における主な感染症の病態・診断・治療および予防策（予防接種を含む）を学ぶ
9	松元	ユニット3：呼吸器疾患 2)慢性呼吸器疾患の病態・診断・治療を学ぶ 主な疾患：気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎・肺線維症
10		3)腫瘍性呼吸器疾患と胸膜疾患の病態・診断・治療を学ぶ 主な疾患：肺癌、胸膜中皮腫、胸膜炎、気胸
11	得能	ユニット1：循環器疾患 1)循環器疾患の主要な症状や障害の病態を学ぶ 主な症状や障害：心不全、不整脈、血圧異常、ショック、チアノーゼ 2)循環器内科系の主な疾患の病態・診断・治療を学ぶ 主な疾患：虚血性心疾患、動脈疾患、静脈疾患、控滅症候群 3)循環器外科系の主な疾患の病態・診断・治療を学ぶ 主な疾患：弁膜症、心筋・心膜疾患、先天性心疾患
12	岡田	ユニット2：免疫・アレルギー・感染症 1)免疫系、感染防御系の健康障害と生体の反応を学ぶ 2)自己免疫疾患、アレルギー性疾患、免疫不全症の病態・診断・治療を学ぶ 3)小児・成人・老年期における主な感染症の病態・診断・治療および予防策（予防接種を含む）を学ぶ
13	松元	ユニット3：呼吸器疾患 4)感染性呼吸器疾患の病態・診断・治療を学ぶ 主な疾患：肺炎、肺結核、非結核性抗酸菌症
14	宮園	ユニット4：疾患と看護とのつながり 1)呼吸器疾患と看護とのつながりを学ぶ
15	青木	ユニット5：疾患と看護とのつながり 1)循環器疾患と看護とのつながりを学ぶ

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講期間
DN111440	専門基礎	必修	感染免疫学	講義	1	30	15	1年次後期
関連するディプロマ・ポリシー NO. 3								
評価責任者及び担当教員								
評価責任者：学生部長 担当教員：長 環								
授業の目的とねらい								
<p>感染に関する正確な知識や技術は、看護において非常に基本的であり重要なものである。本科目は、感染症の原因となる病原微生物の基本構造や特徴および宿主の生体防御機構を学ぶことで、感染症の成り立ちを病原微生物と宿主の関係で理解し、医療従事者媒介感染の予防意義の理解を深めることを目的とする。</p> <p>教科書および提示する資料を基に学修する。</p>								
到達目標								
<p>全体の到達目標：将来、看護師として、科学的根拠に基づく対象者の個別性に応じた最適な生活（well-being）に向けた看護を計画的に実践できるよう感染免疫学の視点からアプローチできる。</p> <p>知識</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 細菌、ウイルス、真菌、原虫の形態、構造、特徴について述べるができる。 2. 感染と感染症の定義、感染症の分類について述べるができる。 3. ウイルス感染症、病原真菌・原虫感染症について述べるができる。 4. 自然免疫と獲得免疫、免疫寛容と自己免疫について述べるができる。 5. バイオハザードとバイオセーフティ、滅菌と消毒について述べるができる。 6. 病原体検査、診断法について述べるができる。 7. 薬剤耐性、抗菌薬、抗ウイルス薬について述べるができる。 8. 新興・再興感染症を列挙できる。 9. 院内感染を説明できる。 10. ワクチンを説明できる。 <p>態度、技術形成</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 疑問点について質問することができる。 2. 看護への応用について考えることができる。 								
準備学習								
予習・復習に必要な時間は全体で 15 時間とする。指定教科書、配布資料などによる予習、復習を行う。								
成績評価基準								
中間試験および定期試験（90%）、授業態度（10%）による総合判定を行う。								
課題等に対するフィードバック								
課題レポート等は、評価後に返却し、正答および解答の提示を行う								
教科書・参考書など								
<p>（教科書）南嶋洋一ほか、編集 『微生物学 疾病の成り立ちと回復の促進④』第 12 版 医学書院、2016</p> <p>（参考書）吉田真一ほか、編集 『戸田細菌学』改訂 34 版 南山堂、2013</p>								
授業内容								
回	担当教員	授業内容						
1	長	1) 細菌の形態と特徴 2) 細菌の増殖と遺伝 3) 常在菌叢						
2	長	1) ウイルスの構造と特徴 2) ウイルスの増殖と分類						
3	長	1) 真菌の形態と特徴 2) 真菌の増殖 3) 原虫の基本構造と特徴						

4	長	1) 感染と感染症の定義 2) 病原体の侵入と感染経路で感染症を分類する。
5	長	1) 細菌感染の機構 2) 細菌感染症
6	長	1) ウイルス感染の機構 2) ウイルス感染症
7	長	1) 病原真菌・原虫感染の機構 2) 病原真菌・原虫感染症を説明する。
8	長	中間試験
9	長	1) 自然免疫のしくみ 2) 炎症性サイトカインと急性期反応
10	長	1) 獲得免疫のしくみ
11	長	1) 獲得免疫のしくみ 2) 免疫寛容と自己免疫
12	長	1) バイオハザードとバイオセーフティ 2) 滅菌と消毒の定義 3) 滅菌方法を列挙 4) 消毒方法を列挙
13	長	1) 病原体を検出する方法を列挙する。 2) 生体の反応から診断する方法を列挙する。
14	長	1) 薬剤耐性を説明する。 2) 抗菌薬を列挙する。 3) 抗ウイルス薬を列挙する。
15	長	1) 新興・再興感染症を列挙する。 2) 院内感染を説明する。 3) ワクチンを説明する。

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講期間
DN111640	専門	必修	日常生活援助論演習	演習	3	90	45	1 年次後期
関連するディプロマ・ポリシー NO. 1, 2, 3, 6, 7								
評価責任者及び担当教員								
評価責任者：三好麻紀 担当教員：三好麻紀，青木久恵，荒川満枝，門司真由美，西田彩子，香山真衣子，高野佳範								
授業の目的とねらい								
<p>(授業のねらい)</p> <p>1 年生の後期にある本科目では、人間の日常生活行動を援助する基本的知識・技術・態度を修得する。日常生活行動を支える要素である「活動と休息」「清潔及び衣生活」「食事」「排泄」を単元として学習する。前半は単元ごとに必要な基本的知識について学習し、その援助方法について安全・安楽・自立の視点を踏まえた看護技術を修得する。後半の統合型演習は、最適な生活 (well-being) を目指した援助について検討し、理解を深める。</p> <p>(実務経験を生かした教育内容)</p> <p>大学附属病院や公立病院等における看護師の実務経験を生かして、基本的な知識・技術・態度を踏まえた日常生活援助技術を教授するとともに対象者の個性に応じた援助についても指導する。また、看護師の実務経験やこれまでの教育経験を生かして、模擬患者に応じたカルテやシナリオを作成し、臨床現場に近づけた看護実践ができるよう指導する。</p>								
到達目標								
<p>1. 全体像の理解 知識</p> <p>1) 日常生活を営む人間の基本的ニーズと看護の役割について述べるができる。</p> <p>2) 日常生活行動を支える要素である「活動と休息」「清潔及び衣生活」「食事」「排泄」について、それぞれの意義と援助方法について説明することができる。</p> <p>3) 設定された事例に応じた日常生活援助について検討し、実施の判断、実施中の観察、実施後の評価に関する一連の看護実践過程のプロセスを述べるができる。</p> <p>2. 態度形成 態度</p> <p>1) 援助を受ける患者の思いを考え、真摯に学習や技術習得に取り組むことができる。</p> <p>2) 不明な点は積極的に質問をし、自己学習や自己練習に取り組むことができる。</p> <p>3) 今後の臨地実習を視野に入れた学習姿勢を習得できる。</p> <p>3. 技術</p> <p>1) 日常生活行動を支える要素である「活動と休息」「清潔及び衣生活」「食事」「排泄」における援助方法について、安全・安楽・自立の視点を踏まえた看護技術を習得できる。</p> <p>2) 設定された課題および条件に合わせて適切な看護技術を習得できる。</p>								
準備学習								
<p>講義前にシラバスで確認し、該当する部分の教科書に目を通しておく。本科目は、看護技術の習得も必要な科目であるため、演習項目は、技術に関する視聴覚教材を用いて事前にイメージができるようにしておくとともに、事前に配布する演習課題を基に要点を整理しておく。また、技術は、根拠を踏まえて、繰り返し技術練習を重ねることで習得可能となるため、積極的に自己練習をすることが望ましい。</p> <p>各単元（「活動と休息」「清潔及び衣生活」「食事」「排泄」）の講義を受けずに演習のみの出席をすることは認めないので、十分な注意を要する。</p> <p>看護技術は、対象者に実施可能なレベルに達するまでの反復の自己練習が必須であるため、予習や自己練習を含む45 時間以上の学習を必要とする。</p>								
成績評価基準								
<p>筆記試験および看護技術のまとめ、授業態度を含む演習課題（80 点）、統合型演習（20 点）など総合して評価する。課題レポートは、形態機能学に関する事前課題や各単元で学修する演習の演習課題が主となる。提出前までの質問を受け付ける。</p> <p>看護技術のまとめは、チェックリストを用いて行う。但し、対象者の安全や安楽を脅かす危険行為があった場合は、0 点とする。また、再試験（筆記）時、看護技術のまとめ時の欠席や課題提出率が 80%未達は、再試験（筆記）の素点から看護技術のまとめ分 10 点、課題分 20 点を減点する。</p> <p>また、課題レポートは演習前の予習や演習後の看護技術の振り返りの記録が主となり、提出期限に遅れた場合は減点対象とする。</p>								
課題等に対するフィードバック								
提出されたレポートは評価後、各単元担当教員が定期試験前までに返却する。								

教科書・参考書など

<教科書>

深井喜代子 編 「新体系 看護学全書 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ 第6版」 メヂカルフレンド社
 深井喜代子 編 「新体系 看護学全書 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ 第5版」 メヂカルフレンド社
 宮脇美保子 編 「新体系 看護学全書 基礎看護学4 臨床看護総論 第3版」 メヂカルフレンド社
 任和子、井川順子 編 「根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術」 医学書院
 佐藤和良 著 「看護学生のための物理学」 医学書院
 阿部敏子 監修 「エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図改訂版」 中央法規
 池西静江、小山敦代、西山ゆかり 編 「アセスメントに使える疾患と看護の知識」 照林社
 水田祥代、窪田恵子 監修 「授業・演習、臨床・在宅現場でも、すぐに使える！看護で教える最新の口腔ケア」
 大道学館出版部
 福岡看護大学「共通編実習要項」
 福岡看護大学「基礎看護学実習 実習要項」
 福岡看護大学「看護技術経験録」

<参考書>

竹尾恵子 監修 「看護技術プラクティス 第4版」 学研
 小山珠美 編 「口から食べる幸せをサポートする包括的スキル 第2版」 医学書院

授業内容

回	担当教員	授業内容
1	青木久恵	ユニット1 基礎看護学実習を見据えた日常生活援助論演習の取組み方について学ぶ。 日常生活援助論演習を受講するにあたっての準備や学び方について確認する。
2 3	門司真由美	ユニット2 睡眠と休息 睡眠・休息の意義とアセスメントの視点について学ぶ。
4	門司真由美	ユニット3 活動 活動の意義と援助方法について学ぶ。
5 6	門司真由美 三好麻紀 西田彩子 香山真衣子 高野佳範	ユニット3 活動 活動の援助方法（車椅子およびストレッチャーでの移乗・移送）について学ぶ。
7 8 9 10	香山真衣子	ユニット4 清潔と衣生活 皮膚や毛髪、粘膜の清潔と衣生活を整える意義、援助方法について学ぶ。
11	三好麻紀	ユニット4 清潔 口腔内の清潔を整える意義、援助方法について学ぶ。
12 13 14 15 16 17	香山真衣子 三好麻紀 門司真由美 西田彩子 高野佳範	ユニット4 清潔と衣生活 清潔の援助方法（清拭、洗髪）について学ぶ。
18 19	高野佳範	ユニット5 食事 食事することの意義と援助方法について学ぶ。
20 21	西田彩子	ユニット6 排泄 排泄することの意義と援助方法について学ぶ。
22 23 24	三好麻紀 西田彩子 香山真衣子 門司真由美 高野佳範	ユニット4, 6 清潔と衣生活、排泄 清潔の援助方法（足浴、陰部洗浄、口腔ケア）について学ぶ。 排泄の援助方法（便器挿入）について学ぶ。

25	青木久恵 荒川満枝 三好麻紀 門司真由美 西田彩子 香山真衣子 高野佳範	ユニット7 well-beingを踏まえた統合型演習 基礎看護学実習に臨むにあたり、事例を用いた統合型演習の学び方（自己学習やグループワーク）と、事例の患者について学ぶ。
26 27 28 29 30	青木久恵 荒川満枝 三好麻紀 門司真由美 西田彩子 香山真衣子 高野佳範	ユニット7 well-beingを踏まえた統合型演習 設定された事例に応じた日常生活援助について検討し、実施の判断、実施中の観察、実施後の評価に関する一連の看護実践過程のプロセスについて学ぶ。
31 32 33 34	三好麻紀 門司真由美 西田彩子 香山真衣子 高野佳範	ユニット8 看護技術（日常生活援助技術）のまとめ 設定された課題および条件に合わせた適切な看護技術について学ぶ。
35 36 37	青木久恵 荒川満枝 三好麻紀 門司真由美 西田彩子 香山真衣子 高野佳範	ユニット7 well-beingを踏まえた統合型演習 模擬患者を活用して、個性のある看護を提供するための援助計画を立案し、患者に応じた看護実践について学ぶ。
38	三好麻紀 門司真由美 西田彩子 香山真衣子 高野佳範	ユニット8 看護技術（日常生活援助技術）のまとめ 設定された課題および条件に合わせた看護技術について、振り返りを通して各自の課題を明らかにし、条件に合う援助方法について学ぶ。
39 40 41	青木久恵 荒川満枝 三好麻紀 門司真由美 西田彩子 香山真衣子 高野佳範	ユニット7 well-beingを踏まえた統合型演習【模擬患者発表会】 シミュレーション（模擬患者を活用した演習）を通して、より実践的な看護援助について学ぶ。
42 43 44	青木久恵 荒川満枝 三好麻紀 門司真由美 西田彩子 香山真衣子 高野佳範	ユニット7 well-beingを踏まえた統合型演習【模擬実習型シミュレーションの振り返りと発表会】 シミュレーション演習を実施した振り返りを行うことで実習への課題を明らかにし、より実践的な看護援助について学ぶ。
45	三好麻紀 高野佳範	ユニット9 まとめ 食事についての自宅課題について、学びと課題を発表し、食事援助について学ぶ。 日常生活援助論演習の講義全体を通し、安全・安楽・自立の視点を踏まえた看護技術について総括し学ぶ。

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講期間
DN111615	専門	必修	フィジカルアセスメント演習	演習	1	30	15	1年次後期
関連するディプロマ・ポリシー NO. 3, 6								
評価責任者及び担当教員								
評価責任者：門司真由美 担当教員：門司真由美, 得能智武, 三好麻紀, 西田彩子, 香山真衣子, 高野佳範								
授業の目的とねらい								
<p>(授業のねらい)</p> <p>看護の対象となる様々な健康レベルの人々を理解するひとつの技法として、ヘルスアセスメントおよびフィジカルイグザミネーションを含めたフィジカルアセスメントがある。対象理解には、ヘルスアセスメントおよびフィジカルアセスメントに必要な基礎的な知識と技術と態度を身に着けることが重要である。そのため、ヘルスアセスメントやフィジカルアセスメントの意義と目的を学習し、フィジカルアセスメント技術を実践し、得られた情報から基準と逸脱について判断し、看護ケアに適用できるようにする。さらに、ヘルスアセスメントに必要な問診、視診、触診、聴診、打診などの身体的アセスメント、系統的フィジカルアセスメントに必要な基礎的な知識・技術・態度を修得する。</p> <p>アセスメントには、各器官系統の構造と機能を把握しておく必要があり、解剖や生理学の知識を活用できるように準備しておく(1年次「形態機能学」参照)。特に、口腔を起点とした全身の健康支援を考えるためには、これらの知識を活用しながら、ヘルスアセスメントおよびフィジカルアセスメントを実践し、看護の対象となる様々な健康レベルの人々を理解する。さらに、DVDなどで事前学習を行い、技術の目的・根拠・手順の概要について把握し、技術習得については、自己演習を反復することが必須である。また、バイタルサインの一連の行為を正確に実施できることが求められる。</p> <p>(実務経験を生かした教育内容)</p> <p>大学附属病院や公立病院などにおける看護師の実務経験を生かして、ヘルスアセスメントおよびフィジカルイグザミネーションを含めたフィジカルアセスメントに必要な基礎的な知識・技術・態度を教授する。また、事例を用いながらバイタルサイン測定、フィジカルアセスメント技術について指導する。</p>								
到達目標								
<p>1. 全体像の理解 知識</p> <p>1)ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメントについて理解できる。</p> <p>2)バイタルサインに必要な、身体の構造と機能とバイタルサイン測定について理解できる。</p> <p>3)呼吸器系、循環器系、消化器系、筋・骨格系、神経系、感覚系のアセスメントについて理解できる。</p> <p>2. 態度形成 態度</p> <p>1)患者に羞恥心や不安を与えないようにバイタルサイン測定を行うことができる。</p> <p>2)報告時に、得られた情報から基準と逸脱について判断したことを踏まえた表現ができる。</p> <p>3)患者に羞恥心や不安を与えないように、呼吸・循環・腹部の聴診の情報を得ることができる。</p> <p>4)技術を振り返り、自己の課題を明確にできる。</p> <p>3. 技能</p> <p>1)バイタルサイン測定技術を修得できる。</p> <p>2)各器官について、フィジカルイグザミネーションを活用し、得られた情報からアセスメントができる。</p>								
準備学習								
バイタルサイン測定は、正確に実施できることが必須である。そのためには、正確に実施可能なレベルに達するための反復自己練習が必須であり、全体で15時間以上の学習を必要とする。また、事前にMoodleにあるバイタルサイン測定の動画を視聴し、自己学習すること。								
成績評価基準								
<p>筆記試験(70点)、授業態度・課題・看護技術のまとめ(30点)などを総合して評価する。</p> <p>技術のまとめは、チェックリストを用いて行う。但し、対象者の安全や安楽を脅かす危険な行為があった場合は、0点とする。また、筆記試験の再試験時、看護技術のまとめを欠席または課題提出率が80%未満は、再試験(筆記)の素点から看護技術のまとめ分10点、課題分20点を減点する。</p> <p>課題レポートは、講義後の予習・復習課題や看護技術の演習記録が主となり、提出期限に遅れた場合には減点対象とする。また、課題レポート提出日まで質問を受け付ける。</p>								
課題等に対するフィードバック								
提出されたレポートは評価後、各単元教員が定期試験前までに返却する。また、必要時講義の中で解説を行う。								

教科書・参考書など

教科書：

三上れつ 小松万喜子 小林正弘 「ヘルスアセスメント 臨床実践能力を高める」 南江堂
 深井喜代子 編 「新体系 看護学全書 基礎看護学2 基礎看護技術I 第6版」 メヂカルフレンド社
 高松研 監修 「生体のしくみ標準テキスト 第3版 新しい解剖生理」 医学映像教育センター
 任和子、井川順子 編 「根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術」 医学書院
 水田祥代、窪田恵子 監修 「看護で教える最新の口腔ケア ー授業・演習、臨床・在宅現場でも、すぐに使える！ー」 大道学館出版部
 奈良信雄 編 「系統看護学講座 別巻 臨床検査 第8版」 医学書院
 福岡看護大学「基礎看護学実習 実習要項」
 福岡看護大学「看護技術経験録」
 福岡看護大学「共通編 実習要項」

参考書：

清村紀子工藤二郎編「根拠と急変対応からみたフィジカルアセスメント」 医学書院
 清村紀子工藤二郎編「フィジカルアセスメントの根拠がわかる！機能障害からみたからだのメカニズム」 医学書院
 山内豊明著「フィジカルアセスメント ワークブック：身体の仕組みと働きをアセスメントにつなげる」 医学書院
 山内豊明 著 「フィジカルアセスメント ガイドブックー目と手と耳でここまでわかる」 第2版 医学書院
 阿部幸恵 著 「症状別病態生理とフィジカルアセスメント」 照林社

授業内容

回	担当教員	授業内容
1	門司真由美 得能智武	ユニット1：ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメント ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメントについて学ぶ。
2	西田彩子 得能智武	ユニット2：バイタルサイン測定
3	西田彩子 得能智武	必要な、身体の構造と機能について理解し、バイタルサイン測定について学習、バイタルサイン測定の方法を修得する。
4	西田彩子	
5	門司真由美 三好麻紀 香山真衣子 高野佳範 得能智武	
6	三好麻紀 得能智武	ユニット3：口腔・咽頭・腹部のアセスメント 口腔・咽頭・腹部のアセスメントについて学ぶ。
7	門司真由美 得能智武	ユニット4：呼吸器系のアセスメント 呼吸器系のアセスメントについて学ぶ。
8	得能智武 門司真由美	ユニット5：循環器系のアセスメント 循環器系のアセスメントについて学ぶ。
9	西田彩子	ユニット6：バイタルサイン技術のまとめの講評および振り返り バイタルサイン技術の振り返りとフィジカルアセスメントに関連した知識の整理を行い、総合的なまとめを通して、対象に応じたフィジカルアセスメントについての理解を確認する。
10	門司真由美	
11	三好麻紀 香山真衣子 高野佳範 得能智武	
12	門司真由美 三好麻紀 西田彩子 香山真衣子 高野佳範 得能智武	ユニット7：フィジカルアセスメント技術のまとめの講評および振り返り フィジカルアセスメント技術の呼吸音の聴診の方法を修得する。事例について、呼吸に関する情報を収集し、得られた情報から基準の逸脱を判断し、アセスメントする。
13	門司真由美 得能智武	ユニット8：骨・骨格系のアセスメント 筋・骨格系のアセスメントについて学ぶ。
14	高野佳範 得能智武	ユニット9：神経系のアセスメント 神経系のアセスメントについて学ぶ。
15	高野佳範 得能智武	ユニット10：感覚系のアセスメント 感覚系のアセスメントについて学ぶ。

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講期間
DN111620	専門	必修	看護理論	講義	1	15	8	1 年次後期
関連するディプロマ・ポリシー NO. 1, 2, 3								
評価責任者及び担当教員								
評価責任者：三好麻紀 担当教員：三好麻紀，青木久恵，中島富有子，門司真由美，西田彩子，香山真衣子，高野佳範								
授業の目的とねらい								
<p>1 年生の後期にあるこの科目では、看護を志す者として、看護の歴史の礎を築きながら、看護をより科学的にかつ論理的に学問としての発展に寄与した主な看護理論家の看護の捉え方について学習します。特に、看護理論家の看護の捉え方については、看護の主要概念である4つのメタパラダイムを学習し、看護の実践での活用についての基礎的知識を得ることを目指しています。</p> <p>この科目は、毎回看護理論家の看護理論を予習や復習に取り組むことによって、学修の成果が得られるように構成されています。</p> <p>(実務経験を生かした教育内容)</p> <p>大学附属病院や公立病院等における看護師の実務経験を生かして、事例を通して看護理論を活用し看護の意味を考える教育内容とする。また、対象者の最適な生活 (well-being) を目指す上での看護理論との関連についても説明する。</p>								
到達目標								
<p>1. 全体像の理解 知識</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 本授業で学ぶ学習内容の概略を述べることができる。 2) 看護理論の歴史の変遷の概要を説明できる。 3) 看護理論を学ぶ意義を述べるができる。 4) 各看護理論における理論家の概要（看護の捉え方や看護の実践での活用）について説明できる。 <p>2. 態度形成 態度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 積極的な学修態度を養うことができる。 2) 発表会を通して、看護理論に関心を払い聴くことができる。 <p>3. スキル形成</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 課題に沿って、自己学修に役立てる為の図書館利用法やパソコン検索方法を活用できる。 2) 課題に沿って、内容を整理し要約できる。 3) 学習した看護理論の内容をプレゼンテーションできる。 4) 他者のプレゼンテーションを基にディスカッションできる。 								
準備学習								
学生は、必須または推奨される読書、課題、授業配付プリントなどの予習・復習といった学習活動に全体で30時間以上の学習を必要とする。								
成績評価基準								
筆記試験 (50 点)、授業態度・課題 (50 点) などを総合して評価する。課題の締め切りに遅れた場合は、減点されるので、締め切りに注意する。また、課題レポートの提出率が80%未満の場合は、定期試験の再試験受験の際に20点の減点を行う。授業態度には、授業に臨む姿勢、プレゼンテーション、グループ討議などのディスカッションが含まれる。								
課題等に対するフィードバック								
課題は、適宜提示する。課題提出まで質問を受け付ける。 提出された課題は評価後、各担当教員が定期試験前までに返却する。								
教科書・参考書など								
教科書： 筒井真由美編：看護理論（改訂第3版）看護理論 21 の理解と実践への応用，南江堂 F. ナイチンゲール，薄井坦子，小玉香津子他訳，看護覚え書，現代社 H. ヘンダーソン，湯槇ます他訳，看護の基本となるもの，日本看護協会出版会 参考書： 筒井真優美編；看護理論家の業績と理論評価，医学書院								
授業内容								
回	担当教員	授業内容						
1	三好麻紀	ユニット1・授業の概要と看護理論とは何かについて学ぶ。 看護理論の歴史の変遷の概要を学ぶ。 看護理論と看護実践のつながりについて考え方を学ぶ。 F. ナイチンゲール F. ナイチンゲールの著書「看護覚え書」を基に環境に着目したナイチンゲールの取組みと現在に生かす看護実践について学ぶ。						

2	青木久恵	ユニット2・V. ヘンダーソン V. ヘンダーソンの著書「看護の基本となるもの」を基に人間の基本的ニーズに着目したヘンダーソンの主張や現在の看護実践への適用について学ぶ。
3	三好麻紀	ユニット3・HE. ペプロウ、A. ウィーデンバック 対人関係に着目して理論を構築したペプロウの人間関係の看護論について学習する。また、プロセスレコードを発展させたA. ウィーデンバックについての学習を深め、看護実践への活用について学ぶ。
4	門司真由美	ユニット4・SC. ロイ 適応システムとしての人間の捉え方とロイ適応看護モデルについて学習し、看護実践への活用について学ぶ。
5	中島富有子	ユニット5・DE. オレム セルフケア理論について主要概念などの概略を学習し、看護実践への活用について学ぶ。
6	三好麻紀 中島富有子 青木久恵 門司真由美 西田彩子 香山真衣子 高野佳範	ユニット6・ 同一事例を各看護理論の視点に基づき検討し、看護理論の特徴および事例の解釈を発表会で発表し、看護理論を用いた看護の考え方について学びを深める。
7	三好麻紀 中島富有子 青木久恵 門司真由美 西田彩子 香山真衣子 高野佳範	ユニット6・ 同一事例を各看護理論の視点に基づき検討し、看護理論の特徴および事例の解釈を発表会で発表し、看護理論を用いた看護の考え方について学びを深める。 整理した課題は、発表資料として全員提出する。
8	三好麻紀	ユニット7・まとめとその他の看護理論家の紹介 過去の看護師国家試験を基に看護理論に関する出題を解くとともに、本科目の学修について整理する。また、授業で取り上げた看護理論家の他に、看護師の成長という視点でP. ベナーの看護理論について学習する。

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講期間
DN111605	専門	必修	基礎看護学実習	実習	1	45	23	1年次後期
関連するディプロマ・ポリシー NO. 3								
評価責任者及び担当教員								
評価責任者：青木久恵 担当教員：青木久恵, 荒川満枝, 三好麻紀, 門司真由美, 西田彩子, 香山真衣子, 高野佳範, 末永陽子, 秋永和之, 山元万里子, 町島希美絵, 宮坂啓子, 松尾里香, 山中富, 青野広子, 中西真美子, 原やよい, 有永麻里, 黒岩千翔								
授業の目的とねらい								
<p>〈授業のねらい〉</p> <p>1年生の後期にある本実習では、患者の日常生活行動の観察やコミュニケーションを通して、入院による環境の変化や健康障害、治療などにより患者が身体的・精神的・社会的な影響を受けていることを理解し、患者が最適な生活（well-being）を営めるための日常生活援助が実践できる知識・技術・態度を修得する。その中で、看護技術の原理・原則に基づき、患者の状態に合わせた器質的口腔ケア方法を修得する。</p> <p>〈実務経験を生かした教育内容〉</p> <p>大学付属病院や公立病院等における看護師の実務経験をいかし、患者との援助的人間関係を基盤に、日常生活上のニーズを充足できるための問題解決過程について指導する。患者への直接看護の際には、当該病院の看護師である実習指導者の指導の下、患者の個別性に応じた安全・安楽な看護が実施できるよう支援する。</p>								
到達目標								
<p>1. 日常生活援助の実施</p> <p>1) 受け持ち患者を生活者として捉え、日常生活行動のアセスメント方法を理解することができる。</p> <p>2) 臨地実習指導者からの説明を受けて、受け持ち患者の疾患や障害、および治療内容について理解し、日常生活行動への影響を理解することができる。</p> <p>3) 患者の全体像について把握し、日常生活上の援助の必要性を理解することができる。</p> <p>4) 患者の最適な生活（well-being）を目指した日常生活行動の援助計画を立案することができる。</p> <p>5) 患者の安全・安楽・自立・個別性を踏まえた日常生活援助の方法を理解することができる。</p> <p>6) 実施した援助に対する評価の方法を理解することができる。</p> <p>2. 患者との援助的人間関係の構築</p> <p>1) 患者との援助的人間関係構築の方法が理解できる。</p> <p>3. 看護専門職としての態度</p> <p>1) 看護専門職者としての倫理観を持ち、自立した学習姿勢を身につけることができる。</p>								
準備学習								
<p>1. 実習開始前</p> <p>1) 実習オリエンテーション</p> <p>2) 事前学習</p> <p>健康障害や老化現象が身体的・精神的・社会的側面へ及ぼす影響（特にセルフケア能力） 日常生活行動のアセスメント 口腔の機能と口腔の清潔援助 受け持ち患者の障害および疾患、治療 バイタルサインの測定と観察結果の意味づけ</p> <p>3) 日常生活援助に関する看護技術、バイタルサインの測定、フィジカルアセスメント技術に関する演習</p>								
成績評価基準								
<p>実習評価表に基づき実習目標の達成度について、実習担当教員が実習指導者と協議し、総合的に評価する。学生による中間評価を積極的に行って、実習期間中に実習目標を到達できるようにする必要がある。実習評価は、実習評価表に基づき、実習目標の到達度を総合的に評価する。</p>								
課題等に対するフィードバック								
<p>日々の実習の中で、実習指導者および実習担当教員の助言を受ける。実習要項の実習進度をもとに日々の課題スケジュールを立案し、翌日の課題は、前日の実習時間内に見通しをつけられるよう、積極的に取り組む必要がある。実習終了時には実習担当教員による面接を実施し、フィードバックを受ける。</p>								

教科書・参考書など

<教科書>

福岡看護大学「基礎看護学実習 実習要項」
 福岡看護大学「共通編実習要項」
 福岡看護大学「看護技術経験録」
 深井喜代子 編 「新体系 看護学全書 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ 第6版」 メヂカルフレンド社
 深井喜代子 編 「新体系 看護学全書 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ 第5版」 メヂカルフレンド社
 宮脇美保子 編 「新体系 看護学全書 基礎看護学4 臨床看護総論 第3版」 メヂカルフレンド社
 任和子、井川順子 編 「根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術」 医学書院
 池西静江 小山敦代 西山ゆかり 編 「アセスメントに使える疾患と看護の知識」 照林社
 阿部俊子監修 山本則子編 「エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図」 中央法規
 水田祥代・窪田恵子 監修 「授業・演習、臨床・在宅現場でも、すぐに使える！看護で教える最新の口腔ケア」
 第1版 大道学館出版部

授業内容

回	担当教員	授業内容
	青木久恵 荒川満枝 三好麻紀 門司真由美 西田彩子 香山真衣子 高野佳範 末永陽子 秋永和之 山元万里子 町島希美絵 宮坂啓子 松尾里香 山中富 青野広子 中西真美子 原やよい 有永麻里 黒岩千翔	1. 受け持ち患者を生活者として捉え、日常生活行動のアセスメント方法を理解する。 1) 受け持ち患者の日常生活行動に関する情報について、患者・カルテ・医療従事者から情報収集を行い、行動毎に記述できる。 2) 得られた情報から、日常生活行動の自立度についてアセスメントした結果を記述できる。 3) 障害や入院により、日常生活行動の自立度の変化について記述できる。 4) 口腔の機能および清潔状態についてアセスメントができる。 2. 臨地実習指導者からの説明を受けて、受け持ち患者の疾患や障害、および治療内容について理解し、日常生活行動への影響を理解する。 1) 受け持ち患者の疾患や障害について、正常な生理機能とどのように異なっているかについて記述し説明できる。 2) 受け持ち患者の現在受けている治療内容について記述し、説明できる。 3) 医師からの指示内容について記述し、説明できる。 4) 患者のバイタルサイン測定を正確に実施することができる。 「詳細は実習要項へ記載」

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講期間
DN111700	専門	必修	成人看護学概論	講義	1	15	8	1 年次後期
関連するディプロマ・ポリシー NO. 1. 2. 3. 4. 6. 7								
評価責任者及び担当教員								
評価責任者：岩本利恵 担当教員：岩本利恵、内田荘平								
授業の目的とねらい								
<p>成人看護学概論は1年生の後期に配置されている専門科目である。成人看護学は基礎看護学と共に看護学の基盤をなす科目であるので、看護を志す者として看護の主要概念を学び看護の視点を身につけていく科目と位置付ける。</p> <p>成人期は、社会の一員として就労し、新たな家族や友人関係を育み、新たな役割や仕事を確立していく年代にある。身体的には、基礎代謝を含む身体の生理的状況が安定するとともに生殖機能が成熟する。また、仕事や家庭、及び地域での役割を通して、自らの特性や価値観を自覚していく。その一方で、加齢に伴う身体機能の低下を自覚し始める。このような発達課題を踏まえ、健康レベルに応じ、個々の人生設計に沿ったセルフケア、療養を支える看護を学ぶことを目的とする。</p> <p>この科目は、講義内でのディスカッションと毎回の課題にきちんと取り組むことによって、学修の成果が得られるように構成されている。課題は調べ学習が中心であるが、基礎ゼミナールなどで学んだ資料を読解する力を用いて、看護の重要概念や理論について、今後看護を学ぶ過程で自分が振り返りに用いる資料としてのレポート作成を行う。また、事例を用いて看護問題の発見などを行い、健康の担い手としての看護師の視点や役割について自ら考える姿勢を養っていく。</p> <p>〈実務経験を生かした教育内容〉 大学付属病院や慢性期・急性期病院における臨床看護実践経験を活かし、疾病や障害とともに生きる対象者および家族の最適な生活（well-being）を目指した看護の実践を指導する。</p>								
到達目標								
<p>知識・理解</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 成人期にある人の身体的・心理的・社会的及びスピリチュアルな側面を説明できる。 2) 成人期にある人の身体的・心理的・社会的及びスピリチュアルな側面が健康問題に及ぼす影響を説明できる。 3) 成人期にある主な健康課題について述べるができる。 4) 成人期の主な健康課題と発達課題を踏まえ身体的・心理的・社会的な側面の影響について述べるができる。 5) 必要な療養やセルフケアについて、社会生活に求められる仕事と生活の観点から就労生活、家族生活との両立を支援する方法について理解できる。 <p>態度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護者としての視点や態度を身につける。 2) 専門職者として学び続ける態度を身につける。 <p>技能</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 「看護の視点」で健康科学についてディスカッションできる。 2) 成人期の健康課題について、発達課題を踏まえ、身体的・心理的・社会的情報から、包括的にアセスメントできる。 								
準備学習								
事前学習：事前にシラバスの学習項目について予習を行い、講義を受ける。自己学習ノートを作成しておくことが望ましい。事前学習をして講義、グループディスカッションに約90分/週を費やすこと。								
成績評価基準								
筆記試験(80点)、レポート(小テスト、事前学習課題、事後学習課題20点)レポートは、A-Eの5段階で評価する。これらの合計で評価する。								
課題等に対するフィードバック								
事前学習、事後課題、小テストやり直しなど、提出物のすべては、評価後に返却し、正答の掲示および解説を行う。								
教科書・参考書など								
教科書：小松浩子・井上智子他 著 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[1]成人看護学総論」医学書 参考書：『国民衛生の動向』厚生労働省統計協会 ナーシンググラフィカ 『成人看護学-成人看護学概論』メディカ出版								

授業内容		
回	担当教員	授業内容
1	岩本	成人期にある対象者の身体的、心理的、社会的およびスピリチュアルな側面が健康問題に及ぼす影響について理解する。 1) 成人の様々な定義を比較して、成人とは何かを説明できる。 2) 社会のなかでの生活者という視点から、成人の役割について述べることができる。 3) 健康増進について社会のインフラと関連させ、諸外国と比較して述べるができる。 4) 重要概念について述べるができる。
2	岩本	成長・発達に応じた身体的、心理的、社会的特徴と社会の中での役割とそれに伴う生活習慣が健康に及ぼす影響を学ぶ。また、社会人としての職業とストレスについて学ぶ。 1) 成人各期の健康問題の特徴と対策について述べるができる。 2) AYA 世代の小児期から引き継ぐ疾患のケアに対する特徴について述べるができる。 3) 健康問題を引き起こす要因について述べるができる。 4) ストレス関連疾患について述べるができる。 5) ライフスタイルと健康問題の関連について述べるができる。 6) 職業病の種類と近年増加した職業病の原因と対策について述べるができる。
3	内田	クリティカルケア看護の概念、患者の特徴、患者の生命・生活を支える援助の概要について理解する。 1) クリティカルケア看護の基本的概念について述べるができる。 2) クリティカルケアを必要とする患者の特徴と問題点について述べるができる。 3) 課題侵襲を受けた患者の生体反応について述べるができる。 4) クリティカルケアの実施場所とその特徴を述べるができる。
4	内田	侵襲の大きな治療を受ける対象者の心理特性とケアについて学ぶ。 1) 心的なストレスと身体的な反応について関連性を述べられる。 2) 危機理論の歴史的発展について述べるができる。 3) 重要な危機理論の特徴について述べるができる。 4) 危機に関連した重要概念について述べるができる。
5	内田	成人期の急性期や回復期の特徴と、看護の視点を学ぶ。 1) 急性期、回復期の概念について述べるができる。 2) 侵襲を受けた身体の反応と回復過程について述べるができる。 3) ムーアの反応について述べるができる。 5) 急性期にある患者の家族のケアについて述べるができる。
6	岩本	成人慢性期の理論と概念、患者の特徴、患者の生命・生活を支える援助の概要について理解する。 1) 慢性、慢性期、慢性疾患の特徴について学ぶ。 2) 慢性疾患の動向を学ぶ。 3) 慢性疾患のライフスタイルへの影響について学ぶ。 4) 慢性期疾患をもつ人への看護の在り方、生活者としての捉え方について学ぶ。 5) 慢性疾患を有する人が喪失しやすいものについて学ぶ。
7	岩本	成人慢性期の理論と概念とその看護について理解する。 1) 慢性期における疾患、障害の受容に関連する概念(病みの軌跡、アンドラゴジーなど)を学ぶ。 2) 慢性期における QOL を高めるための概念(セルフケア、セルフマネジメント、アドヒアランス、自己効力、エンパワメントなど)について学ぶ。 3) AYA 世代の小児期から引き継ぐ慢性疾患の特徴について学ぶ。 4) 慢性期における多職種連携、専門職種連携について学ぶ。
8	岩本	成人期終末期の理論と概念とその看護について理解する。 1) 終末期、緩和期について理解する。 2) 終末期、緩和ケアの対象となる人およびその家族の特徴を学ぶ。 3) 終末期、緩和期の全人的苦痛、全人的ケアについて学ぶ。 4) 死の受容とその看護について学ぶ。

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講期間
DN111810	専門	必修	公衆衛生看護学概論	講義	2	30	15	1 年次後期
関連するディプロマ・ポリシー NO. 2 4								
評価責任者及び担当教員								
評価責任者：角森 輝美 担当教員：角森 輝美								
授業の目的とねらい								
社会や医学の変遷、公衆衛生や公衆衛生看護の変遷を通し、公衆衛生の理念であるプライマリヘルスケアやヘルスプロモーションを学ぶ。地域住民の健康問題を解決するための理論を学び、公衆衛生看護活動を展開する場および対象について理解し、その展開方法を総論的に学ぶことで、公衆衛生看護学の理解を深める。								
到達目標								
1. 全体像の理解 知識 <ul style="list-style-type: none"> 1) 公衆衛生看護の理念と看護活動の概念を説明できる。 2) 行政機関の公衆衛生看護活動を説明できる。 3) 地域保健に関する法令の概要を説明できる。 2. 態度形成 態度 <ul style="list-style-type: none"> 1) 積極的にディスカッションへ参加できる。 2) 自らが社会生活を営む住民であることが理解でき社会生活を営む態度が形成できる 3. スキル形成 公衆衛生看護活動の理念、公衆衛生看護における倫理、公衆衛生看護活動の対象や活動方法と特徴についてレポートによる発表ができる。								
準備学習								
講義前にシラバスの学習項目ならびに行動目標を理解した上で、教科書の指定された項目（予習の項目）に目を通しておくこと。 学生は課せられる課題や、その他学習活動に 60 時間を費やすこと。 講義後は、教科書の図表を中心に、講義内容を復習すること。								
成績評価基準								
筆記試験（80%）、授業態度・課題内容（20%）とし、総合 100 点で評価する。 課題の締め切りに遅れた場合は評価シートに記載の通り減点されるので、締め切り日に注意する。								
課題等に対するフィードバック								
提出課題は評価後に講義の中で解説を行う。毎回レスポンスカードの提出を促し、次回講義で解説を行う								
教科書・参考書など								
（教科書） 上野昌江、和泉京子編集 公衆衛生看護学第 2 版 中央法規出版国民衛生の動向 厚生統計協会 これからの共生社会を考える 一般社団法人日本共生社会推進協会 福村出版 （参考書） 新版 保健師業務要覧 第 4 版 日本看護協会出版会								
授業内容								
回	担当教員	授業内容						
1	角森輝美	ユニット 1 公衆衛生看護の理念と概念について プライマリヘルスケアへの理解 ヘルスプロモーションの意義						
2	角森輝美	ユニット 2 公衆衛生の変遷について 公衆衛生看護の歴史・薬害と公衆衛生看護活動 現代の健康問題を考える						
3	角森輝美	ユニット 3 公衆衛生看護活動の対象について 地域で生活している住民の生活、個人、家族、地域						

4	角森輝美	ユニット4 公衆衛生看護活動と行政機関について 保健領域、福祉領域（共生社会を考える）について
5	角森輝美	ユニット5 職域、学校、医療施設、社会福祉施設および国際保健における公衆衛生看護活動について
6	角森輝美	ユニット6 経済・産業、地域社会および社会情勢の変化について 1) 疾病構造と健康問題について理解する 2) 認知症サポーター養成講座を受講し、その役割を考える
7	角森輝美	ユニット7 生活構造の分析について 健康と生活を総合的に捉え、公衆衛生看護の基盤について理解する
8	角森輝美	ユニット8 公衆衛生看護活動の基盤である理論とその展開方法について 医療モデルと生活モデルについての理解する
9	角森輝美	ユニット9 公衆衛生看護活動と地域診断の展開について 基本であるP D C Aサイクルの実践とその概要について理解する
10	角森輝美	ユニット10 公衆衛生看護活動における多くの法的根拠について 主な法律の概要について理解する
11	角森輝美	ユニット11 公衆衛生看護活動における健康危機管理の概念とリスクマネジメントについて 健康危機管理の事前準備と発生後の対応について理解する
12	角森輝美	ユニット12 母子保健活動の法的根拠と母子保健計画の諸施策について 母子保健活動と施策の変遷を理解する
13	角森輝美	ユニット13 成人保健活動の現状と成人保健施策の活動について 健康日本21、健康増進事業、特定健康診査、特定健康指導について理解する
14	角森輝美	ユニット13 精神保健の基本理念、精神保健施策の変遷と現在の精神障害者に対する保健活動について ゲートキーパー養成講座を受講し、その役割を考える
15	角森輝美	ユニット13 感染症法と地域保健活動の動向の理解と今後の展望 感染症法、結核対策・B型肝炎対策（薬害）について理解する 公衆衛生看護の感染症対策の一つとして、感染症の歴史、制度の経過キャリアについて など講義を行い、動画「今伝えたいB型肝炎の現実」の視聴を行いレスポンスカードへの 意見記入後提出。”

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講期間
DN021285	基礎	選択	地域活動と社会貢献	演習	1	15	8	1年次後期
関連するディプロマ・ポリシー NO.1.2								
評価責任者及び担当教員								
評価責任者：藤岡奈美 担当教員：藤岡奈美、町島希美絵、寒水草納								
授業の目的とねらい								
□将来、豊かな人間性と倫理観をもとに社会貢献に努めることができる看護師として、ボランティアとはと言った基本的考えを学ぶ。また、看護職が実践したボランティア活動を知る事で、看護職のボランティアリズムを考察でき、模擬的なボランティア活動をグループにて企画し、募集する媒体を作成できる事で、企画・運営について考察できる。								
到達目標								
1. 全体像の理解 地域活動と社会貢献の変遷、基本的知識を学び、説明できる。 ボランティア活動における看護職の役割が理解できる。 2. 知識・態度・技能形成 「ボランティア活動」の企画・立案を通して看護学生に求められる地域社会への貢献に感心を示し、ボランティア活動への意識を高め、その手法を習得できる								
準備学習								
シラバスに書かれた内容について、各個人で興味がある内容を調査し、プレゼンの資料を作成する。これに要する時間は、総計29時間とする。								
成績評価基準								
定期試験 50点 レポート 10点 ボランティア活動企画書 30点 プレゼンテーション 10点								
課題等に対するフィードバック								
原則としてコメントを記載し、次回の講義にて返却する。								
教科書・参考書など								
教科書 なし 参考書 三谷はるよ ボランティアを生み出すもの -利他の計量社会学- 有斐閣 岡本栄一 学生のためのボランティア論 大阪ボランティア協会								
授業内容								
回	担当教員	授業内容						
1	藤岡奈美	1) ボランティアとは何か？ 2) 誰がなぜボランティアになるのか？ 3) ボランティアを生み出す社会への視点 上記項目について学び、内閣府が報告している国民の社会貢献実際を読み解きながら、ボランティアを生み出すために必要なものは何かを考察する 【レポート課題】自分の力を役立てるレポート						
2	藤岡奈美	ボランティア活動の現状と課題（高原菜実子 先生） 【レポート課題】ゲストスピーカーの講話を聴講し学びと感想を述べることができる。						
3	町島希美絵	1) ボランティア活動計画書（企画書）についての基礎知識を学習する 2) 地域ボランティアの実践例について、健康まるごと福岡学園を例に学習する						
4-5	町島希美絵	1) 板屋地区における土砂災害による集落孤立への看護学生ができるボランティア活動を企画する 2) ボランティア活動に必要なマナーと心構えについて学習する 演習）実戦可能なボランティア活動を企画する 【企画書】						
6-7	寒水草納	1) ボランティア活動への参加を促せる効果的なプレゼンテーション方法について学習する 【人員確保の為の計画書作成】 【演習】実戦可能なボランティア活動を企画する 2						
8	藤岡・町島・寒水	「ボランティア活動」の企画・立案した内容を発表し学びを共有する。						

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講期間
DN112325	基礎	選択	教育方法概論	講義	1	15	8	1年次後期
関連するディプロマ・ポリシー NO. 1								
評価責任者及び担当教員								
評価責任者：宮園真美 担当教員：生田淳一								
授業の目的とねらい								
<p>1 年生後期にあるこの科目では、看護を志す者として、人に伝える、患者指導、家族指導、地域での健康教育といった教育的機能を発揮する場面に生かすために、教育方法に関する基本的な知識や技能について理解することが重要と考えています。</p> <p>この科目を通じて、教育方法の基礎力として、①学習科学の変遷、②学びの本質と教育方法の関連、③教育方法の工学的なアプローチ、④発問等による問による教育技法、などを身につけることができるようになることを目指しています。</p> <p>この科目は、毎回の講義に則した復習に取り組むことによって、学修の成果が得られるように構成されています。</p>								
到達目標								
<p>全体の到達目標：看護の教育的機能に活かすための、教育方法に関する基本的な知識や技能について理解する。</p> <p>知識</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育方法学の役割と変遷について説明できる。 2. 学習科学・学習理論の変遷について説明できる。 3. 問題解決学習の今日的な意義と課題について説明できる。 <p>態度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 工学的アプローチによる授業の設計・実施・評価について概要を知り事例を通して効果を考察できる。 2. 問いによる教育（発問、教師と学習者の関係性を含む）の方法について考察できる。 <p>技能形成</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育方法に関する基本的な知識や技能と看護の教育的機能について関連して考察できる。 								
準備学習								
学生は、必須または推奨される読書、課題、その他学習活動に約60分/週を費やすこと。また、授業で配布するプリントについても予習、復習に活用すること。								
成績評価基準								
学修成果は、「成績評価基準」にもあるように主として定期試験によって評価します。授業態度・課題レポート（50点）および試験（50点）で評価を行う。課題の締め切りに遅れた場合は、減点されるので、締め切り日に注意する。また、課題レポートの提出率が80%未満の場合は、定期試験の再試験受験の際に20点の減点を行う。授業態度には、授業に臨む姿勢、プレゼンテーション、グループ討議などのディスカッションが含まれる。								
課題等に対するフィードバック								
レポート課題を課した場合は、コメントを付けて返却するので、その関連ある事柄について学習を追加すること。								
教科書・参考書など								
教科書：田中耕治・鶴田清司・橋本美保・藤村宣之（著）「新しい時代の教育方法（改訂版）」有斐閣アルマ 2019 参考書：特に指定しない								
授業内容								
回	担当教員	授業内容						
1	生田淳一	ユニット1：教育方法の役割と変遷について学ぶ。 教科書に書かれている内容の理解を通じて、教育方法の役割とその変遷について概要を学ぶ。						
2	生田淳一	ユニット2：学習科学・学習理論の変遷について学ぶ 教科書に書かれている内容の理解を通じて、学習科学・学習理論がどのように発展してきたか、その概要を学ぶ。						

3	生田淳一	ユニット3：問題解決学習について学ぶ 教科書に書かれている内容の理解を通じて、問題解決学習とはどのような学習方法であり、学習者にどのような効果が期待できるのかについて学ぶ。
4	生田淳一	ユニット3：問題解決学習について学ぶ 問題解決学習の具体的な方法について、事例を基に学ぶ。
5	生田淳一	ユニット4：工学的アプローチによる授業の設計・実施・評価について 教育方法の工学的アプローチによる授業の設計・実施・評価について、その概要を学ぶ。
6	生田淳一	ユニット5：問題解決学習について学ぶ 教育方法の工学的アプローチによる授業の設計・実施・評価について、事例を基にどのような効果が期待できるのかについて学ぶ。
7	生田淳一	ユニット6：問いによる教育の方法について学ぶ 問いによる教育（発問を含む）の効果的な利用方法について学ぶ。
8	生田淳一	ユニット6：問いによる教育の方法について学ぶ 問いによる教育に関する教える側と学習者について学ぶ。

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講期間
DN112505	専門基礎	選択	公衆衛生学Ⅱ	講義	1	15	8	1年次後期
関連するディプロマ・ポリシー NO. 3								
評価責任者及び担当教員								
評価責任者：角森 輝美 担当教員：角森 輝美								
授業の目的とねらい								
事例等を通じた公衆衛生行政の実践を学ぶことで人々の生活と公衆衛生学を結合させ Well-being 看護展開ができる。								
到達目標								
1. 全体像の理解 知識 1) この講義を通じて公衆衛生行政を理解し、公衆衛生の課題をとらえる方法を説明できる。 2) 公衆衛生の事象に対する公衆衛生行政のかかわりについて述べるができる。 2. 態度形成 態度 1) 課題に気付き、対応する能力を身につける。 2) 実践事例での討議に於いて、積極的な学修態度を養う。 3. スキル形成 1) 公衆衛生行政の指標について説明できる。 2) 公衆衛生行政の役割について述べるができる。								
準備学習								
講義前にシラバスの学習項目ならびに行動目標を理解した上で、教科書の指定された項目（予習の項目）に目を通しておくこと。 学生は課せられる課題や、その他学習活動に約33時間を費やすこと。 講義後は、教科書の図表を中心に、講義内容を復習すること。								
成績評価基準								
筆記試験（80%）、授業態度・課題内容（20%）とし、総合100点で評価する。 課題の締め切り遅れた場合は評価シートに記載の通り減点されるので、締め切り日に注意する。								
課題等に対するフィードバック								
課題は評価後に返却し解説を行う。								
教科書・参考書など								
教科書：①国民衛生の動向2022/2023 厚生労働統計協会 ②神馬征峰他 著「系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 健康支援と社会保障制度②」医学書院 参考書：①上野昌江、和泉京子編集 公衆衛生看護学第2版 中央法規出版 ②国民の福祉と介護の動向2022/2023 厚生労働統計協会 ③水保学ブックレットNO2. “負の遺産”から学ぶ～坂本しのぶさんとかたる～原田正純著 熊本日日新聞社 ④剖検率100%の町ー九州大学久山研究室との40年ー柘津加奈子著 ライフサイエンス出版								
授業内容								
回	担当教員	授業内容						
1	角森 輝美	ユニット1 我が国を取り巻く社会状況と保健活動・公衆衛生行政の体系						
2	角森 輝美	ユニット2 公衆衛生行政の主要指標						
3	角森 輝美	ユニット3 感染症対策：新型インフルエンザ、新型コロナウイルス対策を中心に考える						
4	角森 輝美	ユニット4 保健と医療の動向						
5	角森 輝美	ユニット5 事例を通して、疫学研究と公衆衛生行政について考える						
6	角森 輝美	ユニット6 ゲストスピーカー招聘 公衆衛生行政における医療体制・保健活動と介護保険						
7	角森 輝美	ユニット7 生活環境						
8	角森 輝美	ユニット8 環境保健；事例を通して、公害と公衆衛生行政について考える						



福岡看護大学

FUKUOKA NURSING COLLEGE

看護学部看護学科

〒814-0193

福岡市早良区田村 2 丁目 15 番 1 号

TEL : 092-801-0485 (教務課)